事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	39300	地域子ども教室事業

施策体系			
基本施策	13	青少年の健全育成の推進
施策の展開	29	青少年の健全育成の推進
戦略事業名	139	地域子ども教室事業

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	不詳			
根拠法令	特になし			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☑ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

・小学校3年生から6年生までを対象に、平日は、市内15校で万華鏡、キーホルダー等の教室を開催。土日は、公民館等を利用した　子ども英会話教室、子ども囲碁教室、ものづくり教室、料理教室を開催する。(教材費は参加者負担)
・講座を通して親子のふれあいや地域の方々との交流を深め、学校・家庭・地域で協力し合い、子どもたちの教育環境を充実させる。

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

地域の大人の協力を得て、学校や公民館等を活用し、子供たちの活動拠点(居場所)を確保し、放課後や週末等における様々な体験活動や地域住民との交流活動等を支援する事業として開始した。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

少子化や家庭環境の変化、地域の教育力の低下等、子どもたちを取り巻く社会的環境の変化が著しいため、学校、家庭・地域が連携を図り、教育環境を充実させる必要がある。
子どもたちが安全に安心して過ごせる子どもたちの居場所づくりや、他校児童や異学年間の交流を通じて、楽しく学びながら豊かな人間性やコミュニケーション能力の育成を望む声がある。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動		提供するモノやサービス		成果		施策の展開		基本施策		基本目標
地域子ども教室を開催する。	➡	小学生を対象に体験活動の機会を提供し、教育環境を充実させる。	➡	充実した体験活動を経験し、異学年交流を通じて人間性・社会性を育む。	➡	青少年の健全育成の推進	➡	青少年の健全育成の推進	➡	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

【地域子ども教室を開催する】

平日放課後の小学校での体験活動(キーホルダー作り、ポップアップカードづくり、万華鏡づくり)。
休日公民館等を利用した英会話教室、囲碁教室、書道教室や各種工作、体験活動、人形劇や映画鑑賞。

② 活動指標

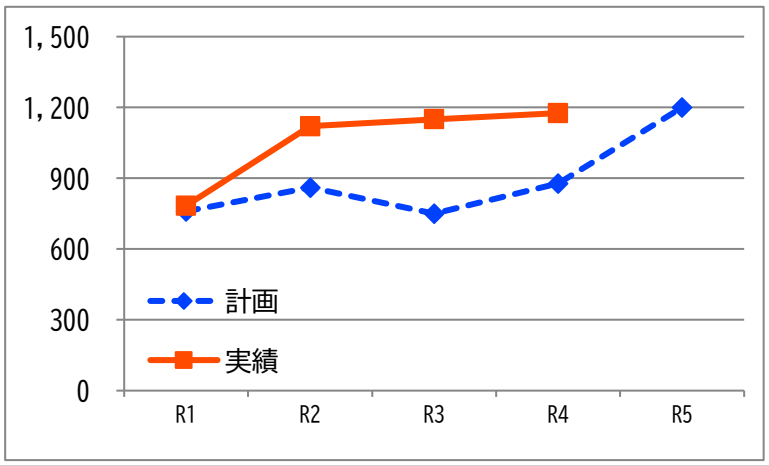
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	地域子ども教室の開催回数	回	計画	37	40	46	56	60
			実績	36	36	51	67	
イ	地域子ども教室子ども向け講座の開催回数	回	計画	95	92	8	30	42
			実績	92	8	25	43	

③ 成果指標

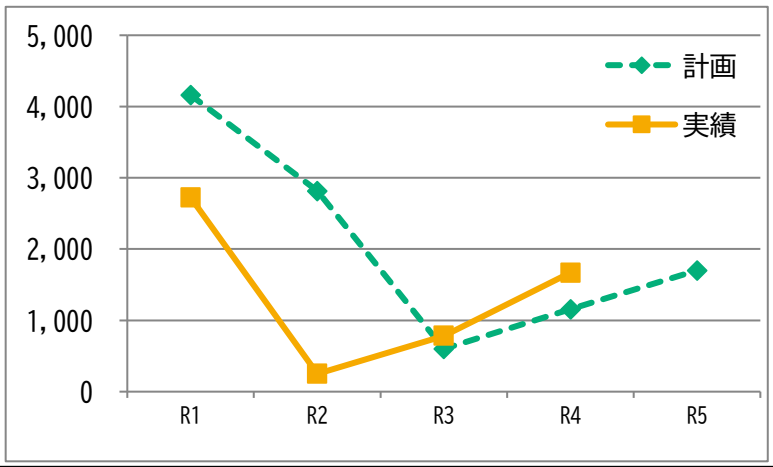
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	地域子ども教室への参加人数(延べ人数)	増やす	人	計画	760	860	750	878	1,200
				実績	784	1,120	1,150	1,176	
イ	地域子ども教室子ども向け講座への参加人数(延べ人数)	増やす	人	計画	4,160	2,816	600	1,156	1,700
				実績	2,724	250	784	1,670	

④成果指標の動向

指標ア　地域子ども教室への参加人数(延べ人数)



指標イ　地域子ども教室子ども向け講座への参加人数(延べ人数)



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 報奨金	347	237	292	527	550
	2. 公演委託料等	1,527	72	1,342	1,365	1,645
	3. 諸借上料	168	0	111	24	150
		0	0	0		
	合計	2,042	309	1,745	1,916	2,345
財源内訳	国・県支出金	0	0	0		
	地方債	0	0	0		
	その他	0	0	1,276	1,276	1,430
	一般財源	2,042	309	469	640	915
	一般財源の比率	**100.0%**	**100.0%**	**26.9%**	**33.4%**	**39.0%**

② 従事職員数

常時	2	人						
最大	7	人	×	15	日	=	延べ 105	人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.報奨金	講師謝金
2.公演委託料等	公演事業賄い、チラシ折込手数料、公演委託料
3.諸借上料	上映作品賃借料

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	地域振興基金繰入金

⑤ R3→R4　増減理由

1. 子ども囲碁教室講座数増のため増額

3. 環境省より無償貸与のDVDを１回使用したため減額

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		**概ね順調**	R4年度は、感染症対策をしながら、通常に近い形で講座や教室を実施した。 また、R3年度より講座数も増加しているため、講座、教室の開催回数や、参加人数が増えている。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	判定 **好調維持**	分析(変動の要因や対策について) 実施した教室の中には、コロナ禍のため欠席者が多くみられたものがあった。 実施内容等を見直して、内容を充実させ、参加者の満足度を高める工夫をした。
	指標イ	判定 **向上**	分析(変動の要因や対策について) 新規講座を増やしたほか、「子ども書道教室」が定員の2倍申し込みがあり、2講座に分けて開催した。 「着ぐるみ人形劇」と「子どもミュージカル」の入場定員を前年度の2倍にして開催した。
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）		判定 **継続実施**	方針 判定・方針の詳細 R5は子ども英会話教室を小学校中学年対象のみとし、英語を学ぶきっかけづくりとする。 子ども向け講座を積極的に進めるとともに、人形劇やミュージカルの入場定員を柔軟に対応する。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	39500	二十歳のつどい開催事業

施策体系			
基本施策	13	青少年の健全育成の推進
施策の展開	29	青少年の健全育成の推進
戦略事業名	134	成人式開催事業

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	令和４年度			
根拠法令	特になし			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

対象年度内に20歳を迎える方(市内及び学生等で市外へ転出している方)を対象に「大人として自覚を促し、自ら生き抜こうとする青年を祝い励ます」ことを目的とした事業。

開催日は、1月の成人の日の前日の日曜日。時間は午前10時から午前11時まで。開催場所は、東総文化会館大ホール。

【式典の流れ】

1. 開式の辞(実行委員)、2.国歌静聴、3.式辞(旭市長)、4.来賓祝辞(県議、市議会議長)、5.記念品贈呈、6.意見発表(各中学校卒業者代表1名:計5名)、7.恩師から(各中学校恩師1名:計5名)、8.思い出のスライド上映、9.実行委員長謝辞、10.閉式の辞(実行委員)

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

成年年齢が18歳に引き下がった後も、旧成人式を引き継ぎ、対象年度内に20歳を迎える方に「大人として自覚を促し、自ら生き抜こうとする青年を励ます」ことを目的として開始した。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

少子化の影響から対象者が減少し続けている。

市中学校合同文化祭と二十歳のつどいを繋ぐ取り組みとして、中学校3年生時に、二十歳のつどい実行委員の選出や「自分への案内状」を作成しているが、コロナ禍により、合同文化祭が中止となっている。また、自分への案内状は、現住所との照合が煩雑すぎるのと、5年前とは家庭状況等も変化しているため、見直しの検討が必要である。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
二十歳のつどい実行委員会を立ち上げて、式典の企画や運営を行う。	実行委員会を開催し、式典内容の協議を行う。また、委員が中心となり、出演者(意見発表等)等への依頼や調整を行う。式典内容が決定した後は、実行委員会でリハーサルを実施する。	実行委員会が主体となって活動することにより、参加者にとって式典がより身近になり、大人となったことを自覚する機会となる。	青少年の健全育成の推進	青少年の健全育成の推進	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

【実行委員会の立上】
・式典の企画を協議する。
・意見発表者を選出する。
・思い出のスライドを制作する。

【式典の運営】
・企画した、式典のリハーサルを行う。
・式典当日は、運営を実行委員が行う。

【その他】
・二十歳のつどい参加者:476名
(H29年度市内中学校卒業生:577名)

② 活動指標

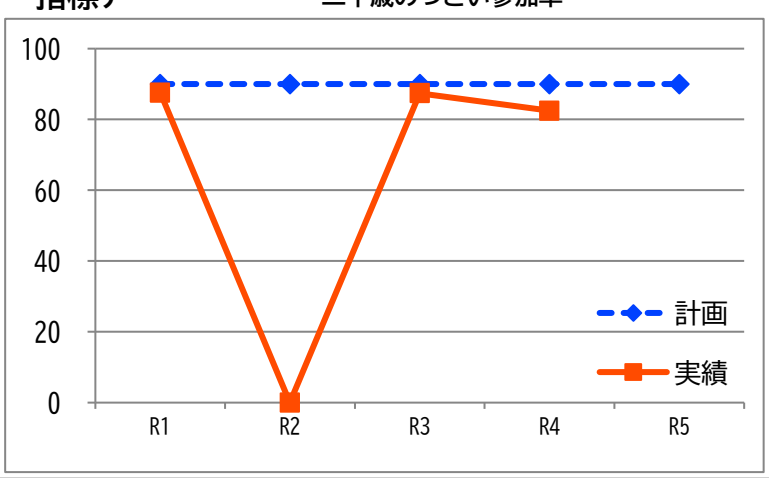
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	二十歳のつどい実行委員数	人	計画	－	－	－	5	26
			実績	27	25	26	22	
イ	式典の企画数	人	計画	－	－	－	9	10
			実績	9	8	9	10	

③ 成果指標

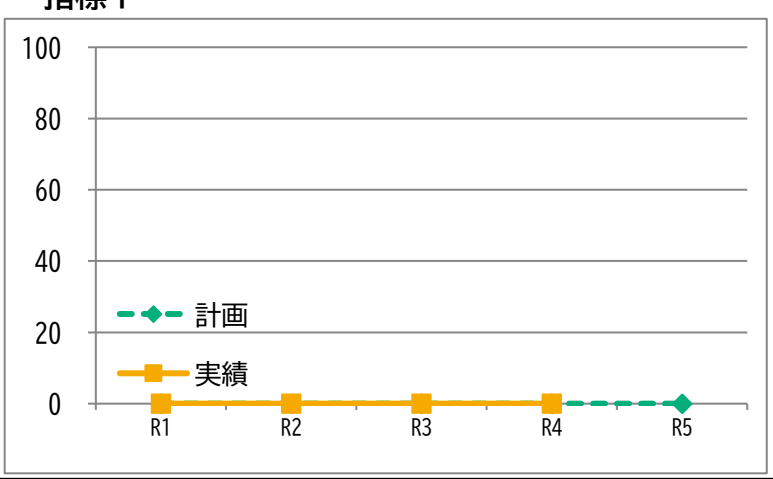
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	二十歳のつどい参加率	増やす	%	計画	90.0	90.0	90.0	90.0	90.0
				実績	87.6	0.0	87.4	82.5	
イ				計画					
				実績					

④成果指標の動向

指標ア　二十歳のつどい参加率



指標イ



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 報償費	743	839	735	631	975
	2. 需用費	58	394	51	60	70
	3. 役務費	48	195	131	46	46
	4. 委託料	19	0	19	26	25
	5. 使用料及び賃借料	218	0	233	243	288
	合計	1,086	1,428	1,169	1,006	1,404
財源内訳	国・県支出金	0	0	0		
	地方債	0	0	0		
	その他	0	0	0		
	一般財源	1,086	1,428	1,169	1,006	1,404
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	2	人						
最大	35	人	×	1	日	=	延べ	35 人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.報償費	記念品、実行委員謝礼等
2.需用費	二十歳のつどい案内状印刷代等
3.役務費	二十歳のつどい案内状郵送料等
4.委託料	二十歳のつどい手話通訳委託料
5.使用料及び賃借料	東総文化会館使用料

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

・令和3年度は、もう一つの成人式の開催通知及び開催延期の通知をしたため、令和4年度は、その分の役務費が減っている、

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	概ね順調	【活動指標の変更について】 ・令和4年4月1日に、成年年齢が18歳に引き下げられたことから、例年開催していた成人式を二十歳のつどいとして開催した。成人式での式典とは異なり、二十歳のつどい実行委員会でより柔軟に式典内容を協議することとなり、これに伴い、活動指標の見直しを行った。 ・実行委員会議で、式典内容等積極的に協議しているため、順調とした。

② 成果指標の推移（R3→R4）		判定	分析(変動の要因や対策について)
	指標ア	伸び悩み	・令和4年度は、令和3年度に比べ、参加率が減っているが、コロナ禍での開催だったため、参加率が低下している。
	指標イ		

③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	判定	方針	判定・方針の詳細
	継続実施		・コロナ禍での二十歳のつどい開催であったが、コロナ対策を講じ、ほぼ通常どおりの式典内容で行えた。また、成人式から二十歳のつどいに名称を変更し、式典にも新企画を盛り込んだ。次年度以降も、実行委員会で、参加者に魅力のある式典の企画を行う。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	39600①	文化財保護事務費（文化財看板の整備）

施策体系			
基本施策	3	観光の振興
施策の展開	8	観光施設の整備
戦略事業名	41	文化財看板の整備

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	文化振興班			
開始年度	平成17年度			
根拠法令	文化財保護法			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☑ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

文化財周知のために、文化財の場所やその近くに看板を設置するもので、旭市を訪ねる方にこの地域の歴史と文化に親しんでもらうことを目的とする。既に設置されているもので老朽化したものを改修するほか、新規の設置も行う。また、看板を設置し、地域の方々にも身近にある文化財を意識してもらうことで、文化財保護や郷土を誇りに思う気持ちをはぐくむ。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

昭和25年制定の文化財保護法に準拠した事業。
市指定文化財について、修復費等の補助・説明看板の設置修繕等を実施。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

既設の老朽化した看板の更新を実施してきた。従来は文化財の内容を記載しただけのものだったが、直接目にすることのできない非公開のものなどを、QRコードを利用し詳細な案内に誘導できる取り組みを始めている。
文字が読めない、支柱が傾いたものがあると、所有者だけでなく住民の方からも改修を望む声がある。また、指定文化財以外についても看板設置を求める要望がある。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動		提供するモノやサービス		成果		施策の展開		基本施策		基本目標
文化財看板の整備	➡	文化財看板の改修、設置	➡	地域住民の文化財保護の意識が高まり、郷土を誇りに思う	➡	観光施設の整備	➡	観光の振興	➡	魅力ある雇用を創出し、安心して働けるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

- 「剣持章行の墓」板面交換
- 「宮負定賢・宮負定雄の遺跡」看板建替え
- 「光明寺の板石塔婆」板面交換

② 活動指標

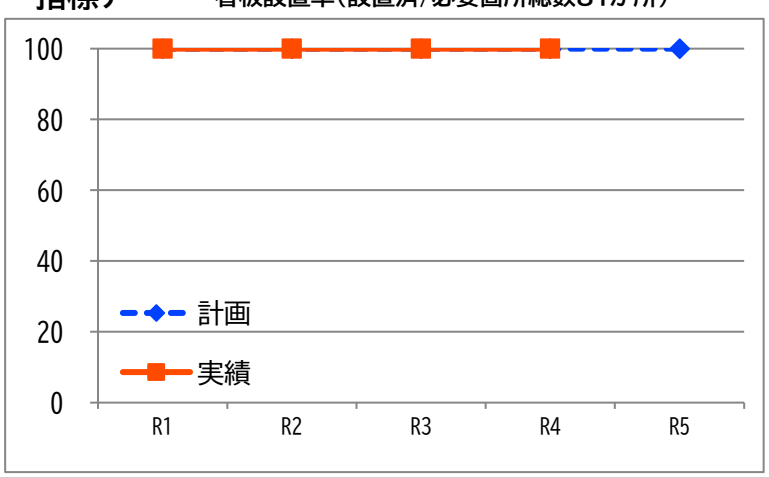
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	看板設置件数	件	計画	0	0	2	3	
			実績	0	2	3	3	
イ	文化財説明件数	件	計画	2	2	2	3	
			実績	2	2	2	2	

③ 成果指標

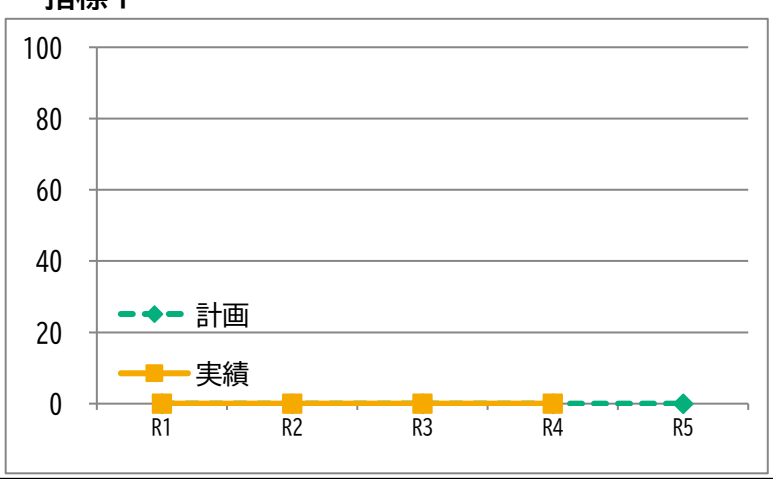
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	看板設置率（設置済/必要箇所総数81か所）	増やす	%	計画	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
				実績	100.0	100.0	100.0	100.0	
イ				計画					
				実績					

④成果指標の動向

指標ア　看板設置率（設置済/必要箇所総数81か所）



指標イ



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 看板設置工事費	0	0	0	0	0
	2. 看板修繕費	102	131	139	110	132
		0	0	0		
		0	0	0		
	合計	102	131	139	110	132
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	102	131	139	110	132
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	2	人

最大		人	×		日	=	延べ		人

③ 各費目の詳細(R4決算)	
1.看板設置工事費	
2.看板修繕費	文化財説明看板修理

④ 特定財源の詳細(R4決算)	
国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

2. 微減のみ

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		順調	継続して実施しているため、必要箇所総数を満たしている。ただし、初期に着手したものがすでに劣化しはじめているため、引き続き整備を行っていく必要がある。今後は、デジタル化に対応した仕様の看板の設置を増やしていきたい。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	好調維持	・毎年、2、3件ずつ建て替えてきたのが、劣化の件数も2、3件で同様の傾向にある。 ・南側に面するものは、日焼けにより劣化が顕著である。
	指標イ		
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）		継続実施	老朽化した看板を優先的に改修するとともに、QRコードを活用した文化財資源の情報発信を進め、文化財の内容、価値や魅力を広く周知する。将来的には、文化財のデジタルアーカイブの作成とあわせて、整備をすすめていく。

指標ア 判定	分析(変動の要因や対策について)
好調維持	・毎年、2、3件ずつ建て替えてきたのが、劣化の件数も2、3件で同様の傾向にある。 ・南側に面するものは、日焼けにより劣化が顕著である。

指標イ 判定	分析(変動の要因や対策について)

判定	方針	判定・方針の詳細
継続実施		老朽化した看板を優先的に改修するとともに、QRコードを活用した文化財資源の情報発信を進め、文化財の内容、価値や魅力を広く周知する。将来的には、文化財のデジタルアーカイブの作成とあわせて、整備をすすめていく。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	39600②	文化財保護事務費（文化財看板の整備を除く）（文化財保存・継承団体助成）

施策体系			
基本施策	12	芸術文化の振興・伝統文化の保存
施策の展開	28	文化財の保護
戦略事業名	132	文化財保存事業

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	文化振興班			
開始年度	平成17年度			
根拠法令	文化財保護法、指定文化財修理復旧事業補助要綱ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☑ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

（1）事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

・開発に伴う埋蔵文化財の発掘調査、整理及び報告書作成
・市所管の文化財の維持管理（くん蒸等）
・指定文化財の修理、復旧、維持管理の助成（事業費が10万円以上について事業費の2分の1以内を助成〔上限30万円〕）。後継者育成のための助成（後継者に2～4万円を助成）。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

昭和25年制定の文化財保護法に準拠した事業。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

埋蔵文化財:事業者からの要望増により、庁内協議により確認調査は公費で実施している。整理作業場所の確保が困難。
指定文化財:保存措置が必要なものが目立つが、所有者・管理者の負担が大きい。継承団体の維持が少子高齢化により困難となっている。
指定文化財の所有者、開発事業者からは補助事業、埋蔵文化財調査とも公費を求める要望が多い。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
文化財保存・継承団体助成	・発掘調査 ・文化財の維持管理 ・指定文化財の修理、維持管理、育成のための助成事業	適正な保存及び活用により、指定文化財が公開及び伝承される	文化財の保護	芸術文化の振興・伝統文化の保存	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

（2）活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

文化財保存
・市指定毘沙門天立像修理

継承団体助成
・国指定記録選択
房総のお浜降り習俗（熊野神社）　衣装、用具の購入
・国指定記録選択
房総のお浜降り習俗（浦賀神社）☒神輿修理、衣装等購入
・市指定文化財　9団体への維持管理費助成

② 活動指標

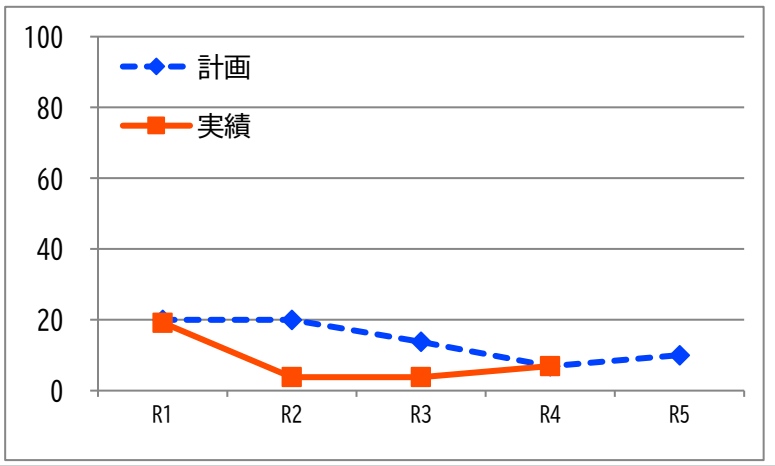
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	埋蔵文化財発掘の届出及び通知件数	件	計画	50	50	67	58	60
			実績	50	67	58	49	
イ	発掘調査件数	件	計画	0	0	0	2	2
			実績	0	0	0	2	

③ 成果指標

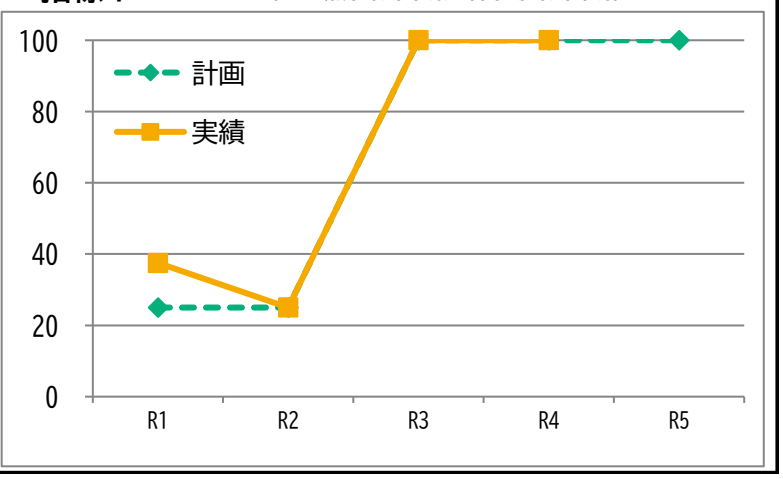
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	発表の場等で積極的に公開された市内文化財の割合（公開件数／130件）	増やす	%	計画	20.0	20.0	13.8	6.9	10.0
				実績	19.2	3.8	3.8	6.9	
イ	埋蔵文化財保存施設のくん蒸割合（くん蒸施設箇所／保存施設箇所）	増やす	%	計画	25.0	25.0	100.0	100.0	100.0
				実績	37.5	25.0	100.0	100.0	

④成果指標の動向

指標ア　発表の場等で積極的に公開された市内文化財の割合（公開件数／130件）



指標イ　埋蔵文化財保存施設のくん蒸割合（くん蒸施設箇所／保存施設箇所）



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 需用費及び役務費	544	132	41	119	155
	2. 委託料	119	2,274	292	292	292
	3. 借上料	196	198	0	0	135
	4. 負担金及び補助金	3,251	4,151	611	547	3,051
	5. その他(報酬・賃金等)	118	6,724	4,721	168	252
	合計	4,228	13,479	5,665	1,126	3,885
財源内訳	国・県支出金	63	74	85	74	85
	地方債	0	0	0	0	
	その他	0	0	0	0	
	一般財源	4,165	13,405	5,580	1,052	3,800
	一般財源の比率	98.5%	99.5%	98.5%	93.4%	97.8%

② 従事職員数

常時	2	人						
最大		人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R4決算)	
1.需用費及び役務費	文化財集約事務消耗品
2.委託料	害虫防除、文化財等運搬
3.借上料	重機借上、建物賃貸借、施設借上
4.負担金及び補助金	文化財保存事業補助金等
5.その他(報酬・賃金等)	審議会委員報酬、会計年度任用職員報酬

④ 特定財源の詳細(R4決算)	
国・県支出金	埋蔵文化財緊急調査費　埋蔵文化財助成事業費補助金、教育委員会権限委譲事務費交付金
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

1. 冊子「あさひ輝いた人々」増刷による印刷製本費の増加
4. 文化財補助事業の対象事業増加による補助金の増加

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	令和4年度は国指定記録選択の無形文化財への補助事業を国の補助金で実施できたほか、全体として指定文化財の補助事業を適切に行うことができた。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	伸び悩み	コロナ禍の影響で、地域の伝統的な行事や祭礼が予定どおり実施されていない。「あさひのまつり」への参加団体が少なかったために中止となった。
	指標イ	好調維持	収蔵施設の管理は例年通り適切に実施することができた。

③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	判定	方針	判定・方針の詳細
	継続実施		市の文化財保護行政の根幹となる業務であり、引き続き事業を実施していく。

事務事業評価シート　令和 4 年度事後評価・決算

令和 5 年 12 月 1 日

事業コード・事務事業名	39720①	家庭教育活動費（家庭教育学級）（家庭教育相談体制）

施策体系			
基本施策	7	子育て支援の充実
施策の展開	16	結婚・子育て環境の整備
戦略事業名	82	家庭教育の充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	不詳			
根拠法令	特になし			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略　重点 2
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

【家庭教育学級】市内小・中学校の1年生の保護者自身が、親の役割、子どもの心の理解など家庭での教育の考えを深めていく学習の場として、また保護者同士が互いに支えあう関係づくりの場として、市内小・中学校の保護者を対象に家庭教育指導員や社会教育指導員と連携しながら家庭教育学級の充実を図る。市内小・中学校20校に対して、学校規模に応じ 運営補助金を交付する。【家庭教育相談体制】社会教育指導員が家庭教育に関する悩みや不安を抱く保護者等に対して電話などによる個別的な相談体制の充実に努める。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

家庭教育学級は、家庭が本来果たすべき役割を見つめなおす機会となるよう、保護者自身が親の役割、子どもの心の理解など家庭での教育について、講師の話や話し合いを通して考えあい深めていく学習の場、保護者同士が交流を通して互いに支えあう関係づくりの場として開設した。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

近年、核家族化により、同居の祖父母から子育てのアドバイスをもらったり、地域で子育てを支えたりすることも少なくなっている。そんな中で、子どもの教育を母親が一人で抱え、母親自身が不安を抱えながら子育てをしていることが多い。
参加者から「家庭教育学級を通じて保護者同士のつながりを強め、子育ての不安を減少させることで、子どもに対して安定した気持ちで接することができ、子どもの気持ちの安定にもつながる」などの意見がある。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
【家庭教育学級】 市内小中学校において家庭教育学級を実施する。 【家庭教育相談体制】 家庭教育相談窓口の開設	【家庭教育学級】 各学校へ家庭教育学級運営補助金を交付 年間2回の合同学習会を実施 【家庭教育相談体制】 家庭教育指導員による相談窓口での対応	【家庭教育学級】 子どもとのかかわりを学んだり、安心感を得たりすることで、保護者の気持ちが安定し、子どもの気持ちの安定につながる。 【家庭教育相談体制】 家庭教育に関する悩みや不安が解消される	結婚・子育て環境の整備	子育て支援の充実	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

【家庭教育学級】
小中学校1年生の保護者を対象に、親の役割、子どもの心の理解について考えを深めていく学習の場としての学級を各学校で1回～3回開催した。また20校の合同学習会として子育てに関する講演会を2回開催した。
【家庭教育相談体制】
家庭教育指導員が家庭教育に関する悩みや不安を抱く保護者等に対して電話などによる個別的な相談に応じた。

② 活動指標

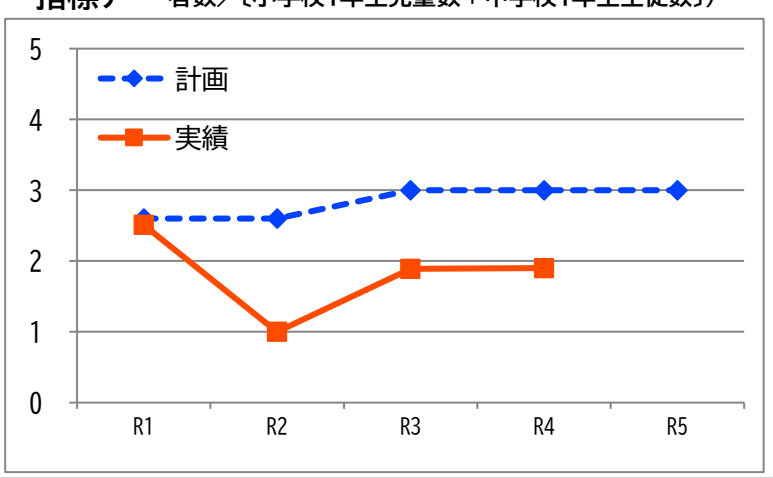
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	合同学習会開催数	講演	計画	2	2	2	2	2
			実績	2	1	2	2	
イ	学校の学習会数	数	計画	72	66	67	60	60
			実績	67	35	55	60	

③ 成果指標

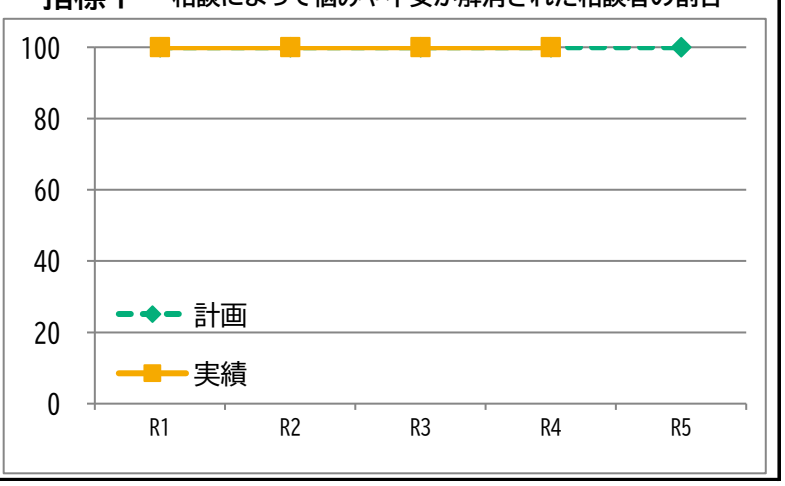
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	児童・生徒1人当たり家庭教育学級参加回数（延べ参加者数／〔小学校1年生児童数＋中学校1年生生徒数〕）	増やす	回	計画	2.6	2.6	3.0	3.0	3.0
				実績	2.5	1.0	1.9	1.9	
イ	相談によって悩みや不安が解消された相談者の割合	増やす	%	計画	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
				実績	100.0	100.0	100.0	100.0	

④成果指標の動向

指標ア　児童・生徒1人当たり家庭教育学級参加回数（延べ参加者数／〔小学校1年生児童数＋中学校1年生生徒数〕）



指標イ　相談によって悩みや不安が解消された相談者の割合



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 報酬等	17	0	0	12	40
	2. 報償金	200	150	100	150	200
	3. 消耗品費	0	0	0	0	
	4. 食料費等	77	86	90	54	156
	5. 家庭教育学級運営補助金	1,600	1,108	1,437	1,543	1,605
	合計	1,894	1,344	1,627	1,759	2,001
財源内訳	国･県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,894	1,344	1,627	1,759	2,001
	一般財源の比率	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**	**100.0%**

② 従事職員数

常時	2	人						
最大	11	人	×	2	日	=	延べ	22 人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.報酬等	講座時保育補助員報酬、旅費
2.報償金	合同開級式・合同講演会講師謝礼
3.消耗品費	講座用消耗品
4.食料費等	講師お茶代、建物等借上料
5.家庭教育学級運営補助金	家庭教育学級運営補助金（小・中学校20校）

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国･県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

1. 保育士、保育補助員賃金増のため増額
4. 建物等借上料の減額
5. 家庭教育学級運営補助金増のため増額

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	**概ね順調**	学習会の内容や各学校の取り組み内容を工夫することで、感染対策をしながらも楽しく参加できる内容となるよう工夫している。

		判定	分析(変動の要因や対策について)
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	**好調維持**	コロナ禍ではあるが、感染対策をしたうえで事業を実施し、徐々に参加者数も増えてきている。
	指標イ	**好調維持**	家庭教育相談員による電話相談を実施した。丁寧な対応ができている。

	判定	方針	判定･方針の詳細
③ 今後の方向性（①･②を踏まえたR5以降の方針）	**継続実施**		コロナによる影響が少なくなりつつあり、参加人数の増加が期待できる。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	39740①	青少年健全育成活動費（青少年育成市民会議）（青少年問題協議会）

施策体系			
	基本施策	13	青少年の健全育成の推進
	施策の展開	29	青少年の健全育成の推進
	戦略事業名	135	青少年育成市民会議の推進

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	不詳			
根拠法令	旭市青少年問題協議会条例等			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

（1）事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

①青少年育成市民会議：地域と行政が協働して意見発表会などを通じて青少年の健全育成を行う。市は育成市民会議に補助金を交付する。
②青少年問題協議会：青少年の指導等に関する総合政策について調査審議する。市は事務局事務を行う。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

【青少年健全育成市民会議】
合併前の1市3町で結成されていた市・町民会議が、平成17年7月の合併により新旭市が誕生したことを受けて、平成17年9月に、新たに「旭市青少年育成市民会議」が結成された。
【青少年問題協議会】
市内における青少年に関する施策の連絡調整、青少年の健全な育成を図るため、地方青少年問題協議会法第1条の規定により旭市青少年問題協議会が設置された。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

青少年を取り巻く社会環境は、親子のふれあい不足、地域での人間関係の希薄化や地域活動への関心の薄れ、子どもたちの異年齢間での遊びの減少などが指摘されている。一方、従来の万引、喫煙、深夜はいかいなどに加え、パソコンや携帯電話によるインターネットの利用から発生する問題は、ますます多様化、低年齢化の傾向にある。
学校、家庭、地域社会、関係機関が一体となった青少年の健全育成活動の取り組みの充実が求められている。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
・青少年健全育成のための事業を実施。 ・青少年健全育成に必要な施策等について研修、協議する。	・県下一斉パトロールの実施 ・青少年意見発表大会の開催 ・青少年問題協議会の開催	青少年の現状や抱える課題、目標等を共有することにより、青少年健全育成活動の充実を図ることができる。	青少年の健全育成の推進	青少年の健全育成の推進	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

（2）活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

≪市民会議≫
会議、青少年意見発表大会

≪問題協議会≫
青少年問題協議会会議の開催

② 活動指標

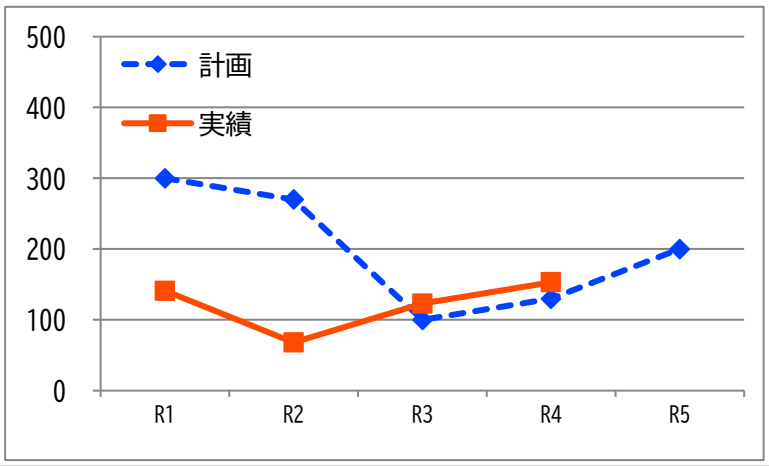
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	≪市民会議≫意見発表大会の発表人数	人	計画	15	15	15	14	14
			実績	14	13	14	13	
イ	≪問題協議会≫会議の回数	回	計画	1	1	1	1	1
			実績	1	0	0	1	

③ 成果指標

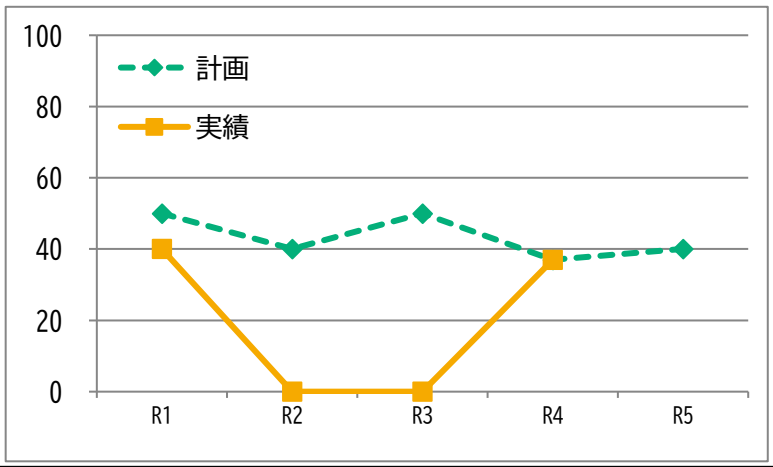
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	≪市民会議≫青少年意見発表大会の来場人数	増やす	人	計画	300	270	100	130	200
				実績	141	68	123	153	
イ	≪問題協議会≫会議及び講演会等の参加人数	増やす	人	計画	50	40	50	37	40
				実績	40	0	0	37	

④成果指標の動向

指標ア　≪市民会議≫青少年意見発表大会の来場人数



指標イ　≪問題協議会≫会議及び講演会等の参加人数



(3)コストの状況

（単位：千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 負担金及び交付金	180	94	147	155	180
	2. 需用費	53	6	0	0	3
	3. 委託料	23	23	0	0	0
	4. 使用料及び賃借料	89	63	74	65	74
	5. 報酬	0	0	0	48	48
	合計	345	186	221	268	305
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	345	186	221	268	305
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	2	人						
最大	4	人	×	2	日	=	延べ	8 人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.負担金及び交付金	補助金（育成市民会議）
2.需用費	啓発用品購入代、記念写真印刷代
3.委託料	手話通訳委託料
4.使用料及び賃借料	東総文化会館使用料
5.報酬	青少年問題協議会委員報酬

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

報酬　青少年問題協議会委員報酬　会議開催のため

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	順調	コロナ禍の中で事業を実施し、令和3年度は入場制限をしていた意見発表大会や、青少年問題協議会を開催することができたため。

② 成果指標の推移（R3→R4）		判定	分析(変動の要因や対策について)
	指標ア	好調維持	コロナの影響による制限が緩和され、来場者が戻りつつある。
	指標イ	好調維持	令和3年度は開催できなかった青少年問題協議会を開催したため。

③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	判定	方針	判定・方針の詳細
	継続実施		青少年の健全育成に関係する団体の集約化を図る。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	39740②	青少年健全育成活動費（青少年相談員）（通学合宿）

施策体系			
基本施策	13	青少年の健全育成の推進
施策の展開	29	青少年の健全育成の推進
戦略事業名	137	青少年相談員連絡協議会活動の推進

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	不詳			
根拠法令	旭市青少年問題協議会条例等			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

（1）事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

①青少年相談員連絡協議会：青少年相談員（千葉県知事委嘱）による青少年健全育成活動。市は連絡協議会への補助金交付を行う。
②通学合宿：異学年同士（小学校5～6年生）で集団生活を実施して健全育成を図る。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

【青少年相談員連絡協議会】
青少年相談員が青少年問題対策の総合的な企画、調整及び推進を行い、青少年の健全な育成を図ることを目的として設置。
【通学合宿】
平成19年度より、子どもたちが親元を離れて、異学年同士で集団生活をすることにより、自主性、協調性、社会性を養うとともに、自分と家族の関係を見つめる機会とし、また、地域の人たちがかかわることにより、地域の人たちとのつながりを深めることを目的として実施。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

青少年を取り巻く社会環境は、親子のふれあい不足、地域での人間関係の希薄化や地域活動への関心の薄れ、子どもたちの異年齢間での遊びの減少などが指摘されている。一方、従来の万引、喫煙、深夜はいかいなどに加え、パソコンや携帯電話によるインターネットの利用から発生する問題は、ますます多様化、低年齢化の傾向にある。
学校、家庭、地域社会、関係機関が一体となった青少年の健全育成活動の取り組みの充実が求められている。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
旭市青少年相談員主催事業を開催する	青少年が自立性、協調性、社会性を養える事業を提供する	青少年と地域の顔である青少年相談員が事業を通じて交流することにより、青少年の人間形成がなされる	青少年の健全育成の推進	青少年の健全育成の推進	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

（2）活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

海上キャンプ場デイキャンプ①
（琴田小・嚶鳴小・鶴巻小・滝郷小）
海上キャンプ場デイキャンプ②
（中央小）
海上キャンプ場デイキャンプ③
（萬歳小・中和小・古城小・共和小・干潟小）
海上キャンプ場デイキャンプ④
（豊畑小・富浦小・矢指小・三川小・飯岡小）
海上地域少年少女ドッジボール大会
子どもパークゴルフ大会

② 活動指標

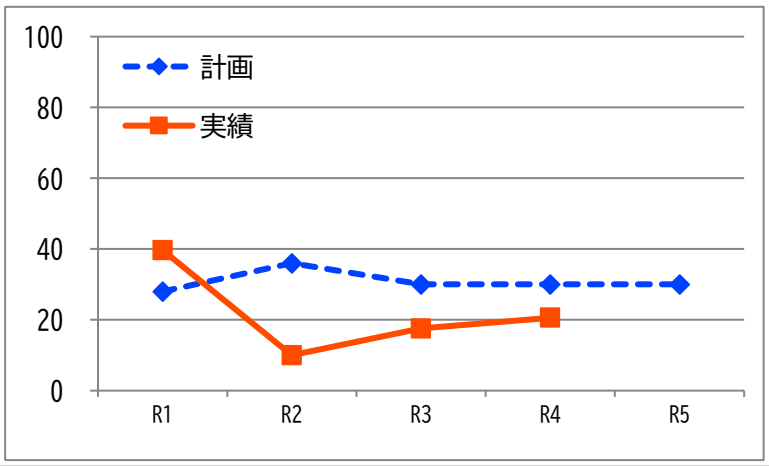
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	≪相談員連絡協議会≫ 行事の回数	回	計画	7	7	4	7	6
			実績	6	1	2	7	
イ	≪通学合宿≫ 事業実施地域	地域	計画	3	3	0	0	0
			実績	3	0	0	0	

③ 成果指標

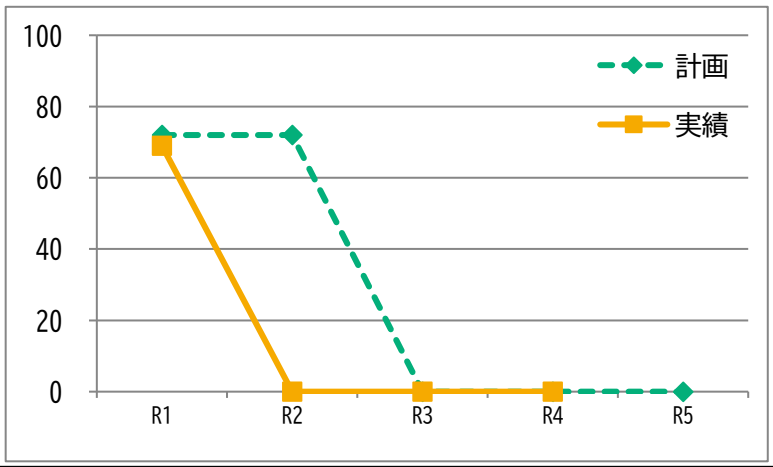
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	≪相談員連絡協議会≫ 相談員の各事業への参加率	増やす	%	計画	28.0	36.0	30.0	30.0	30.0
				実績	39.7	10.0	17.6	20.6	
イ	≪通学合宿≫ 参加人数	減らす	人	計画	72	72	0	0	0
				実績	69	0	0	0	

④成果指標の動向

指標ア　≪相談員連絡協議会≫ 相談員の各事業への参加率



指標イ　≪通学合宿≫ 参加人数



(3)コストの状況

（単位：千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 負担金及び交付金	3,194	440	549	2,777	766
		0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0
		0	0	0	0	0
	合計	3,194	440	549	2,777	766
財源内訳	国・県支出金	360	355	355	360	355
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	2,834	85	194	2,417	411
	一般財源の比率	88.7%	19.3%	35.3%	87.0%	53.7%

② 従事職員数

常時	1	人						
最大	5	人	×	13	日	=	延べ	65 人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.負担金及び交付金	補助金（青少年相談員連協）、海匝相談員負担金

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	青少年相談員活動費補助金
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

青少年相談員の任期が新しく始まり、青少年相談員全員にユニフォームとベンチコートを購入したことにより、前年度より予算が増加した。

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	・コロナウイルスの影響で実施できていなかった「宿泊体験事業」の代替事業として、「海上キャンプ場デイキャンプ」を4回開催し、全回で合計150名と多くの青少年に参加していただいた。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	好調維持	・21期青少年相談員が発足し、初年度の事業であったため、昨年度よりも事業に参加していただける相談員の数が多かった。 ・来年度以降も、青少年はもちろんのこと、事業運営をする青少年相談員も一緒になって楽しめる、達成感を得られるように努めていく。
	指標イ	伸び悩み	・新型コロナウイルスの影響により、実施なし。

③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	判定		方針	判定・方針の詳細
	見直し	➡	その他	・新型コロナウイルスの緩和により、コロナ以前の活動において行っていた「宿泊体験事業」を再開させる。夏（7月）・秋（10月）のタイミングで1回ずつ実施する。 ・初の小学校低学年向け事業として「じゃがいもほり体験」を実施する。 ・通学合宿は、事業内容に実施困難な部分が含まれるため、今後は通学合宿にかわる事業に変更していく。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	39740③	青少年健全育成活動費（ジュニアリーダー）（子ども会）

施策体系			
基本施策	13	青少年の健全育成の推進
施策の展開	29	青少年の健全育成の推進
戦略事業名	140	子ども会活動の促進

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	不詳			
根拠法令	旭市青少年問題協議会条例等			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

（1）事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

子ども会：地域の大人が指導者となり、主体となる子ども会事業等について支援し、様々な体験活動を実施。活動に際しては、ジュニアリーダースクラブ（中学生から高校生までのグループ）がボランティアで支援を行なう。市は子ども会育成連絡協議会への補助金交付と活動の支援を行う。親子地曳網体験、交歓会、書初め展のほか、平成28年度からは子どもパークゴルフ大会を実施している。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

旭市子ども会育成連絡協議会は、市内子ども会の自主性を尊重し、各育成会の連絡協調をはかり、各子ども会の健全な発展に寄与することを目的としている。また、協議会は、指導者の発掘、養成、交歓会事業、バスの借り上げ助成事業等を行っている。市補助金を交付することにより、この活動を助成している。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

青少年を取り巻く社会環境は、親子のふれあい不足、地域での人間関係の希薄化や地域活動への関心の薄れ、子どもたちの異年齢間での遊びの減少などが指摘されている。一方、従来の万引、喫煙、深夜はいかいなどに加え、パソコンや携帯電話によるインターネットの利用から発生する問題は、ますます多様化、低年齢化の傾向にある。
学校、家庭、地域社会、関係機関が一体となった青少年の健全育成活動の取り組みの充実が求められている。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
事業計画に基づき、旭子連主催4事業を開催する。また、5,6年生を対象とした初級講座をジュニアリーダー（中高生）が企画運営する。	・旭子連主催事業 ①親子地曳網体験、②デイキャンプ、③子どもパークゴルフ大会、④書き初め展 ・初級講座事業 ①交流会、②小見川宿泊講習会、③交歓会	小学校区から選出される理事と各子ども会育成者間の連絡調整が図られる。また、子ども会会員は、主催事業を通して、初級講座では、ジュニアリーダーとの異年齢間における交流活動等を通して、社会性や豊かな人間性を養うことができる。	青少年の健全育成の推進	青少年の健全育成の推進	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

（2）活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

【旭子連主催4事業】
・①親子地曳網体験：コロナ禍により中止。
・②デイキャンプ：コロナ禍により中止。
・③子どもパークゴルフ大会：参加者22名
・④書き初め展：作品数138点

【初級講座事業】
・①交流会：小学生参加者14名
　　ジュニアリーダー1名
・②小見川宿泊事前講習会
　　：小学生参加者12名
　　ジュニアリーダー2名
・③小見川宿泊講習会（1泊2日）
　※累計　：小学生参加者22名
　　ジュニアリーダー7名
・④デイキャンプ：コロナ禍により中止。

② 活動指標

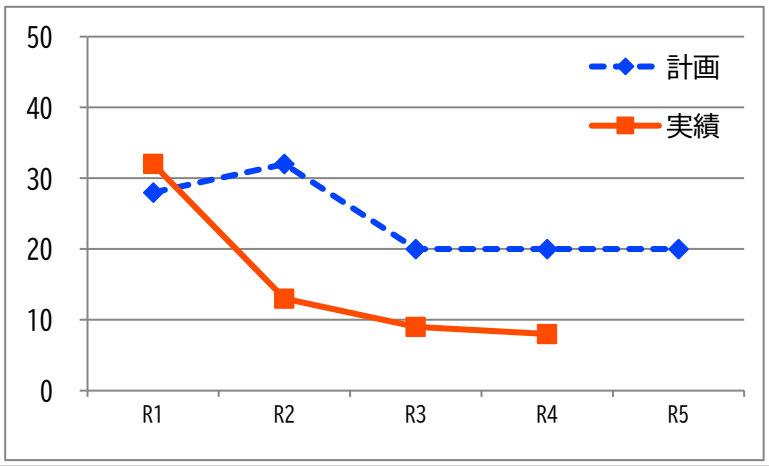
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	≪ジュニア・リーダー≫ ジュニア・リーダー初級講座受講生	人	計画	51	51	30	30	40
			実績	24	13	12	15	
イ	≪子ども会≫ 単位子ども会の会員数	人	計画	2,000	2,000	1,760	1,760	1,200
			実績	1,610	1,165	1,187	1,048	

③ 成果指標

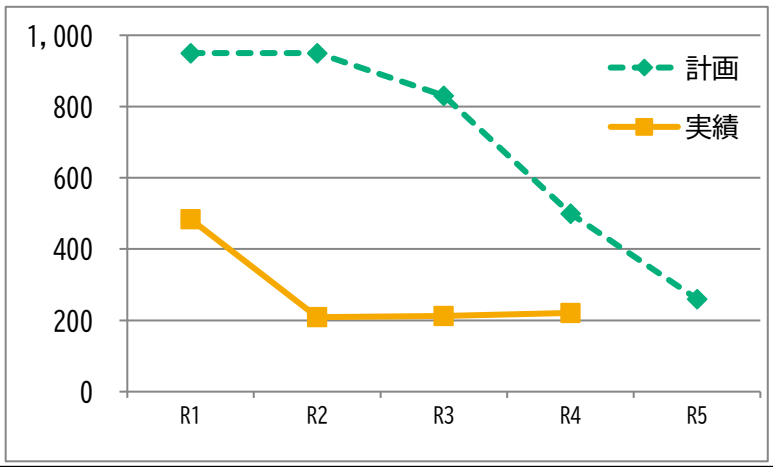
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	≪ジュニア・リーダー≫ ジュニアリーダースクラブ会員	増やす	人	計画	28	32	20	20	20
				実績	32	13	9	8	
イ	≪子ども会≫ 市子連主催の主な事業への参加人数	増やす	人	計画	950	950	830	500	260
				実績	484	209	212	221	

④成果指標の動向

指標ア　≪ジュニア・リーダー≫ ジュニアリーダースクラブ会員



指標イ　≪子ども会≫ 市子連主催の主な事業への参加人数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 負担金及び交付金	2,170	493	646	1,014	2,407
		0	0	0		
		0	0	0		
		0	0	0		
	合計	2,170	493	646	1,014	2,407
財源内訳	国・県支出金	0	0	0		
	地方債	0	0	0		
	その他	0	0	0		
	一般財源	2,170	493	646	1,014	2,407
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	1	人						
最大	6	人	×	30	日	=	延べ	180 人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.負担金及び交付金	補助金

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

・令和4年度は、コロナ禍であっても感染症対策が講じられた事業は開催したため、事業費は増えている。また、バスの借上事業でも、令和4年度は各子ども会への助成が増えたため。

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	・コロナ禍ではあったが、感染症対策を講じて事業を開催できたため。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	判定: 低下	・コロナ禍により、初級講座生が減少したため、ジュニアリーダーへの加入が少なかった。
	指標イ	判定: 向上	・令和3年度は、コロナ禍により旭子連事業の開催が難しかったが、令和4年度は、コロナ対策を講じ、開催できる事業が増えたため。

③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	判定	方針	判定・方針の詳細
	継続実施		・ジュニアリーダースクラブ活動は、異年齢間の活動が中心であり、中高生及び小学生の「他の人と関わりたい」と言う社会性の基礎が身につく事業でるため、今後も継続実施とした。 ・旭市子ども会育成連絡協議会の主催事業を行うことにより、単位子ども会の枠を超え、育成者と子ども会会員が交流することができ、自然体験や交流会を通して、社会性や豊かな人間性を育むことができるため、今後も継続とした。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	39740④	青少年健全育成活動費（茅野市児童交流事業）

施策体系			
	基本施策	16	交流の促進
	施策の展開	33	自治体間交流の促進
	戦略事業名	155	旭市・茅野市児童交流事業

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	1
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	平成24年度			
根拠法令	特になし			

掲載計画等	
☑	総合戦略
☐	国土強靱化地域計画
☑	新市建設計画
☐	定住自立圏共生ビジョン
☐	過疎地域持続的発展計画
☐	R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

旭市の児童と姉妹都市である長野県茅野市の児童が交流を通して、相互の風土及び歴史文化を理解することにより、更なる親睦と友情を深め、姉妹都市の一層の親善を図る。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

平成23年の東日本大震災で旭市が甚大な被害を受けたとき、茅野市から多くの支援物資や義援金、励ましの言葉をいただいたお礼として、本市のPTAを中心とした「山と海　きずなをつなぐプロジェクト」実行委員会が、被災した旭市の復興を願う七夕市民まつりに合わせて、茅野市の子供たちを旭市に招待ことから始まった。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

隔年で市内小学校の輪番により茅野市へ行く学校が決まっているため、一部の小学生だけが交流できる状況となっている。
両市の児童が交流を通して、自然に接するなどの体験活動を通じて、親睦と友情を深め、実りある交流が長く続くことを期待している。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
旭市・茅野市児童交流事業の実施	旭市内小学5年生児童の茅野市訪問	両市の児童が親睦と友情を深め、姉妹都市の一層の親善を図る。	自治体間交流の促進	交流の促進	ひとの定着・還流・移住の流れをつくり、人々が集うまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止

② 活動指標

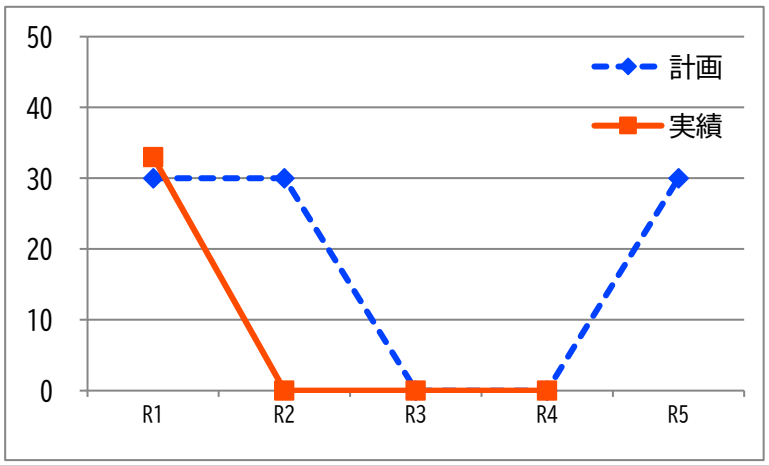
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	旭市の参加小学校数	校	計画	3	3	0	0	10
			実績	3	0	0	0	
イ	茅野市の参加小学校数	校	計画	2	9	0	0	10
			実績	2	0	0	0	

③ 成果指標

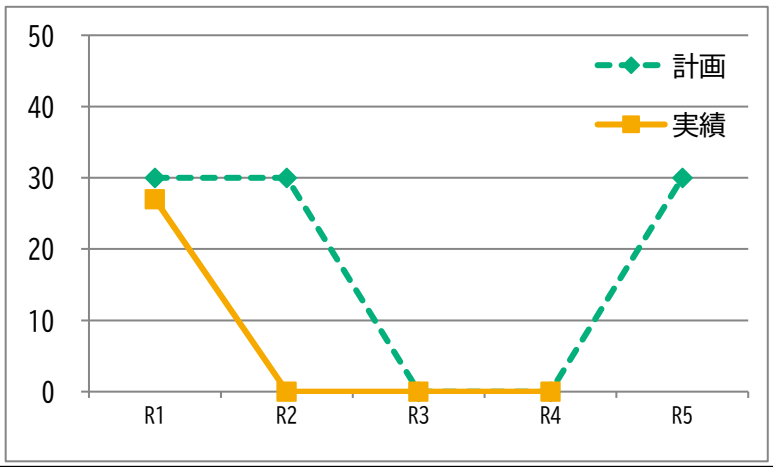
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	旭市の児童参加人数	増やす	人	計画	30	30	0	0	30
				実績	33	0	0	0	
イ	茅野市の児童参加人数	増やす	人	計画	30	30	0	0	30
				実績	27	0	0	0	

④成果指標の動向

指標ア　旭市の児童参加人数



指標イ　茅野市の児童参加人数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 負担金補助及び交付金	315	0	0	0	500
		0	0	0		
		0	0	0		
		0	0	0		
	合計	315	0	0	0	500
財源内訳	国・県支出金	0	0	0		
	地方債	0	0	0		
	その他	315	0	0		
	一般財源	0	0	0	0	500
	一般財源の比率	**0.0%**				**100.0%**

② 従事職員数

常時	1	人						
最大	4	人	×	3	日	=	延べ	12 人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.負担金補助及び交付金	旭市・茅野市児童交流事業補助金

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	地域振興基金繰入金

⑤ R3→R4　増減理由

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	**停滞**	新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止

		判定	分析(変動の要因や対策について)
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	**伸び悩み**	新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止
	指標イ	**伸び悩み**	新型コロナウィルス感染拡大防止のため中止

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	**継続実施**		今後は、学校の輪番による参加者募集を廃止し、チラシで市内の小学5年生全員を対象に公募し、生涯学習課主体で説明会や事前学習会を開催し、学校の負担なしに事業を実施する。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	39900①	文化振興事業（文化振興事業）（文化施設の利用助成事業）

施策体系			
基本施策	12	芸術文化の振興・伝統文化の保存
施策の展開	27	芸術文化の振興
戦略事業名	129	文化振興事業

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	2
所管課	生涯学習課			
担当班	文化振興班			
開始年度	平成17年度			
根拠法令	旭市文化振興基金条例、旭市文化振興規則ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☑ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☑ R4主要事業

（1）事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

文化振興事業（文化協会運営補助金及び文化祭開催補助金を除く）とは、市民の幅広いニーズに対応し、自主的な文化芸術活動が活発になるよう、1. 千葉県東総文化会館にて市主催のコンサート・寄席・あさひのまつりなどを開催し、2. 市内で活動する歌謡・舞踊などの団体に対し、東総文化会館を使用する際に文化施設使用料を助成する事業。また、市民が参加できる芸術文化事業を実施する。
1. 市主催事業　（有料）：あさひ寄席、宝くじ助成事業
　　（無料）：あさひのまつり、文化講演会、スプリングコンサート、NHK公開番組
2. 使用料助成　歌謡、舞踊、カラオケ→施設使用料の1／3を助成している。（上限、回数制限〔年度1回限り〕有）

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

合併前の旭市文化振興基金、海上町文化振興基金に属していた現金、有価証券その他の財産により、新市文化振興基金を設置したことにより始まった。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

文化振興基金は毎年ほぼ5,000千円以上の額を取り崩しており、H28年度末をもって基金を廃止し、一般会計に移行する。
・助成を受けた団体の発表者から「助成が年1回になったので、開催回数を年1回に減らした」といった意見があるほど、この文化会館を利用する団体にとって助成金のメリットは大きい。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
市主催事業を開催する 文化施設利用助成金の交付	市民に対し質の高い舞台芸術の鑑賞機会を提供する 市民参加による文化活動の機会を提供する	市民の芸術文化の普及促進及び文化活動意欲の向上	芸術文化の振興	芸術文化の振興・伝統文化の保存	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

（2）活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

・第17回あさひのまつり（中止）
・第18回あさひ寄席（803人）
・宝くじまちの音楽会（827人）
・第18回スプリングコンサート（536人）
・旭市ふるさと文芸賞（227人/353点）

② 活動指標

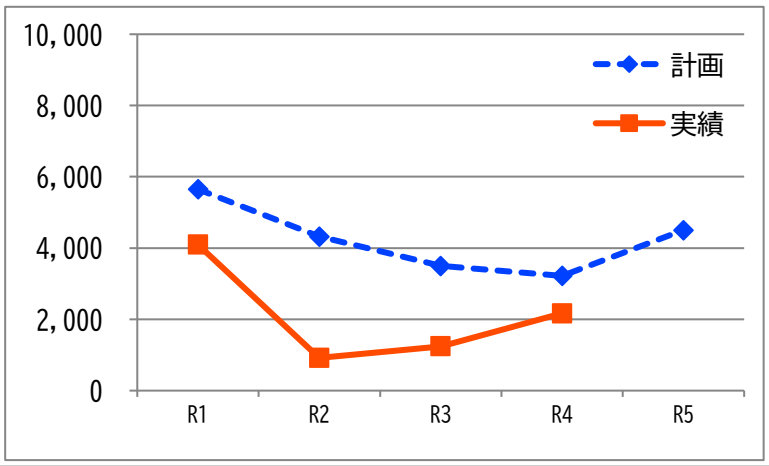
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	市主催事業開催回数（文化祭除く）	回	計画	7	6	8	4	6
			実績	5	3	3	3	
イ	使用料助成件数	件	計画	15	15	15	10	10
			実績	9	1	4	7	

③ 成果指標

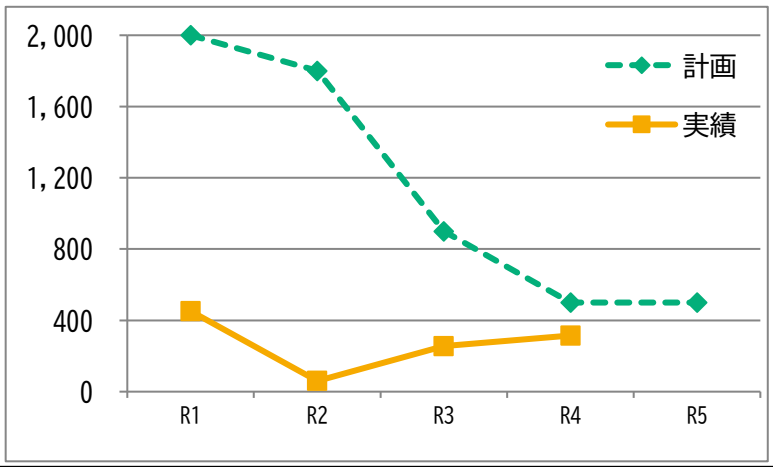
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	市主催事業（文化祭除く）観覧者数	増やす	人	計画	5,650	4,320	3,500	3,220	4,500
				実績	4,096	919	1,243	2,166	
イ	助成によって参加できた団体の発表者数	増やす	人	計画	2,000	1,800	900	500	500
				実績	452	60	255	315	

④成果指標の動向

指標ア　市主催事業（文化祭除く）観覧者数



指標イ　助成によって参加できた団体の発表者数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 公演等委託料	8,652	3,795	2,475	2,365	4,950
	2. 建物等借上料	2,230	936	2,305	963	2,100
	3. 報償金	1,260	1,020	1,255	1,543	1,837
	4. 使用料助成	323	70	169	326	500
	5. その他	2,222	1,382	1,619	1,670	5,363
	合計	14,687	7,203	7,823	6,867	14,750
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	4,348	928	1,090	2,849	5,919
	その他	4,530	2,866	1,384	308	2,787
	一般財源	5,809	3,409	5,349	3,710	6,044
	一般財源の比率	39.6%	47.3%	68.4%	54.0%	41.0%

② 従事職員数

常時	2	人						
最大	7	人	×	1	日	=	延べ	7 人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.公演等委託料	有料公演事業委託料等
2.建物等借上料	千葉県東総文化会館施設及び附帯設備利用料
3.報償金	合唱団講師謝金、自主事業特別出演者報酬
4.使用料助成	使用料助成金
5.その他	印刷製本費等

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	県民芸術劇場公演費負担金
地方債	文化事業入場料収入
その他	地域振興基金繰入金、地域伝統芸能等保存事業助成金

⑤ R3→R4　増減理由

2. 建物等借上料減…市で負担していた文化祭時の会場使用料を文化祭開催事業補助金へ移行したため。
3. 報償金増…新規事業・旭市ふるさと文芸賞の選考委員謝金及び副賞。
4. 使用料助成増…利用団体の増。

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	日頃触れる機会の少ない優れた文化芸術に触れる場の提供や、市民の主体的な活動の支援を行っている。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	向上	コロナの影響による制限が緩和され、来場者が戻りつつある。
	指標イ	判定 好調維持	分析(変動の要因や対策について) 各団体がコロナの影響で中止していた事業を再開した。

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	継続実施		毎年実施している事業に加え、旭市こども書道大会、子供向けの音楽劇や文化教室を予定している。 また、好評を得ているNHK公開収録と宝くじ助成事業については、今後も継続して実施申請を行っていく。

事務事業評価シート　令和 4 年度事後評価・決算

令和 5 年 12 月 1 日

事業コード・事務事業名	39900②	文化振興事業（市民文化活動の支援）

施策体系			
基本施策	12	芸術文化の振興・伝統文化の保存
施策の展開	27	芸術文化の振興
戦略事業名	127	市民文化活動の支援

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	2
所管課	生涯学習課			
担当班	文化振興班			
開始年度	平成17年度			
根拠法令	旭市文化祭開催補助金交付要綱ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☑ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☑ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

【補助金交付事務】旭市文化協会（約1,400名が加盟）への補助（運営に対する補助約631千円）や、文化祭（開催費用1,850千円）への補助を行う。
【その他文化振興関係事務】
日本七宝作家協会への濤川惣助賞の木杯授与など、文化振興関係の事務を行う。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

・旭市文化協会は芸能部、美術部、茶華道部等、部門別に活動しているほか、文化祭は各地域別に開催していた（令和元年度集約開催）。文化協会の加盟団体数は95団体、会員数は1,382名で、自主的に文化活動を行っており、活動の支援や指導者の育成等、市民の文化活動の活性化を図るために始まった。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

・各部門別の活動及び文化祭実施等、文化協会の自主的運営への積極的な姿勢が見られ、事業効果が大きい。
・R4年度から文化協会主催事業について、市が共催から後援になったことに伴い、文化祭開催補助金を増額した。
・文化協会から「補助金がないと運営が難しいので補助金があった方がよい」との意見がある。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
事業を円滑に行うための補助金交付及び後援	市民参加によるの文化活動の機会を提供し、活動を支援する	市民の文化芸術意識の向上と、自主的な文化活動を活性化させる	芸術文化の振興	芸術文化の振興・伝統文化の保存	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

日本七宝協会へ濤川惣助賞杯の提供
文化協会運営補助金の交付
文化祭開催事業補助金の交付

② 活動指標

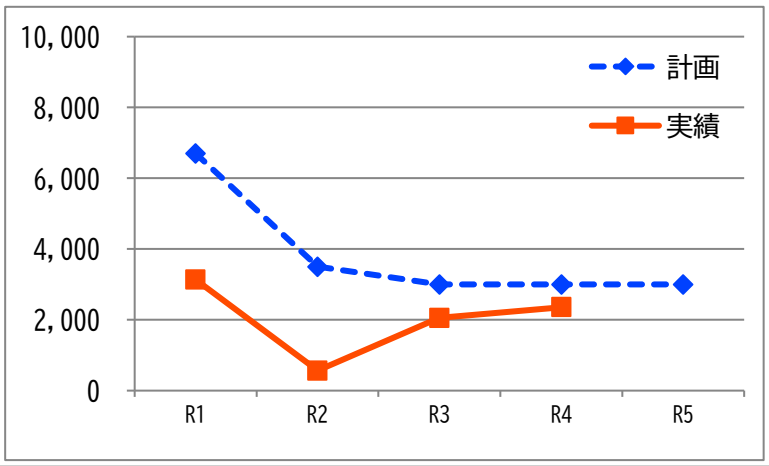
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	文化協会加入者数	人	計画	1,750	1,750	1,700	1,600	1,600
			実績	1,751	1,668	1,528	1,382	
イ	行事開催回数	回	計画	3	3	3	3	3
			実績	1	1	3	3	

③ 成果指標

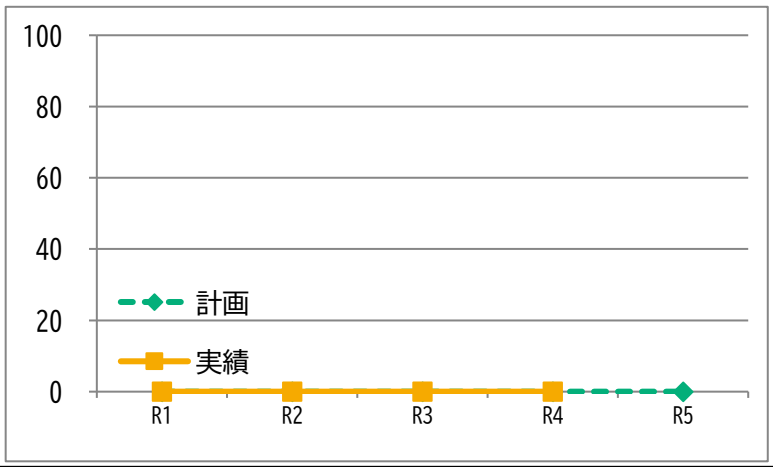
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	文化祭来場者数	増やす	人	計画	6,700	3,500	3,000	3,000	3,000
				実績	3,136	568	2,056	2,357	
イ				計画					
				実績					

④成果指標の動向

指標ア　文化祭来場者数



指標イ



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 負担金及び交付金	1,814	975	1,814	2,481	2,481
	2. 委員等報酬	0	0	0	0	0
	3. 賞賜金	13	0	15	15	16
	4. その他	190	198	21	21	43
	合計	2,017	1,173	1,850	2,517	2,540
財源内訳	国･県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	2,017	1,173	1,850	2,517	2,540
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	1	人						
最大		人	×		日	＝	延べ	人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.負担金及び交付金	文化協会運営費補助金、文化祭開催補助金
2.委員等報酬	文化振興審議会委員報酬
3.賞賜金	日本七宝作家協会木杯
4.その他	需用費・役務費・旅費等

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国･県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

1. 負担金及び交付金増…市で負担していた文化祭会場利用料667千円を、文化祭開催補助金に移行したため。

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	文化協会は文化祭以外にも自主的な文化活動を行っており、活動の支援や指導者の育成等、市民の文化活動の促進を図るため協会への支援は必要である。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	判定： 向上	分析(変動の要因や対策について)：コロナの影響による制限が緩和され、来場者が戻りつつある。
	指標イ	判定：	分析(変動の要因や対策について)：
③ 今後の方向性（①･②を踏まえたR5以降の方針）		判定：継続実施	方針：

判定･方針の詳細

来場者はR2年度の実績から徐々に回復傾向にある。
今後も文化協会の事業を後援し、広報周知等に協力する。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	40200	市民会館管理費

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	25	生涯学習関連施設の充実
戦略事業名	124	各施設の整備充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	3
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和55年度			
根拠法令	旭市民会館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

【維持管理業務】市民の福利増進及び教育文化の向上、産業発展及び市勢振興のため、様々な学習機会を提供する場として、快適かつ安全で利用しやすい施設となるよう、維持管理及び改修を行い整備する事業。①誰もが利用しやすい施設。②法令に適合した安全な施設。③施設管理費の削減。④ITに対応した施設を目指す。
【貸館業務】一般団体、サークル活動等の貸館業務(開館時間　9時～21時　休館日　月・祝日・年末年始休館)。
・使用料(時間単価)　第1研修室　300円、第2研修室　600円、第3研修室　300円

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

昭和41年旭駅前に旭市民会館を開館、老朽化した旭市民会館・旭市青年の家の機能を移転するため、令和3年に第二市民会館を改修し、令和4年に旭市民会館として開館。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

・改修によりトイレが広く使いやすくなり好評。
・法令により2階部分の利用が限られる。
・市検診期間は利用できる部屋が限られ、駐車場も不足する。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
維持管理業務 貸館業務	誰もが利用しやすい快適かつ安全な施設となるよう維持管理を行う	様々な学習機会を得られる場として、市民の福利増進、教育文化の向上を図る	生涯学習関連施設の充実	生涯学習の充実	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

・維持管理業務
　施設維持管理業務委託
　浄化槽改修工事
　警備装置撤去工事
・貸館業務(サークル・団体等:9時～21時)

② 活動指標

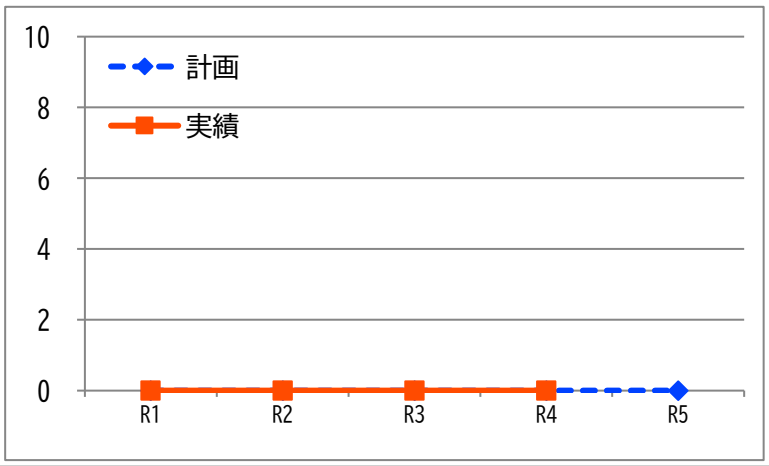
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	管理業務委託数	業務	計画	9	12	10	9	9
			実績	10	11	10	9	
イ	修繕工事数	工事	計画	1	1	0	1	0
			実績	6	4	0	2	

③ 成果指標

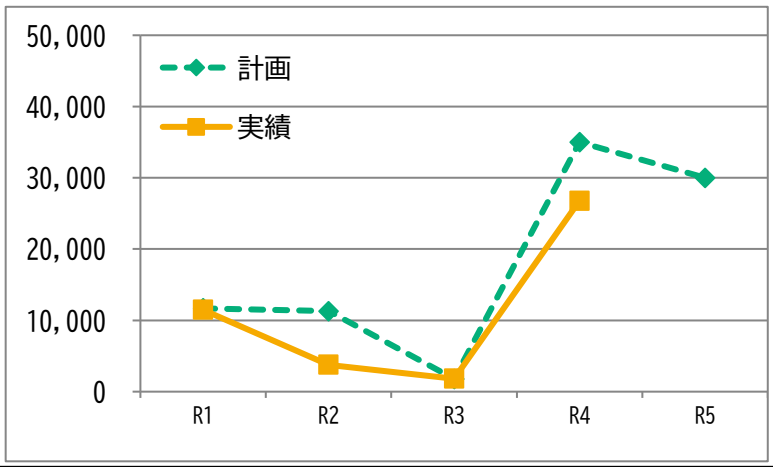
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	施設維持管理に起因する苦情件数	減らす	件	計画	0	0	0	0	0
				実績	0	0	0	0	
イ	延べ利用者数	増やす	人	計画	11,700	11,300	1,800	35,000	30,000
				実績	11,486	3,766	1,813	26,786	

④成果指標の動向

指標ア　施設維持管理に起因する苦情件数



指標イ　延べ利用者数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 委託料	4,745	4,541	2,224	4,043	6,051
	2. 光熱水費	1,627	1,495	848	2,426	3,749
	3. 報酬等(～R1賃金)	1,816	1,984	2,114	5,951	6,376
	4. 修繕料	1,339	432	41	277	166
	5. その他	684	829	1,312	3,631	2,397
	合計	10,211	9,281	6,539	16,328	18,739
財源内訳	国･県支出金	0	0	0		
	地方債	0	0	0		
	その他	309	116	63	398	394
	一般財源	9,902	9,165	6,476	15,930	18,345
	一般財源の比率	**97.0%**	**98.8%**	**99.0%**	**97.6%**	**97.9%**

② 従事職員数

常時	3	人						
最大		人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.委託料	清掃、受付業務、警備、浄化槽維持管理、他業務委託
2.光熱水費	電気代、水道代、ガス代
3.報酬等(～R1賃金)	会計年度任用職員報酬・期末手当
4.修繕料	施設等修繕料、公用車整備料
5.その他	共済費、旅費、消耗品費、燃料費、役務費、使用料及び賃借料、備品購入費

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国･県支出金	
地方債	
その他	施設使用料

⑤ R3→R4　増減理由

【光熱水費の増】令和３年度は改修工事により休館期間があったため減となった。

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		**順調**	引き続き利用者が快適に過ごせるよう維持管理を行う。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	**好調維持**	改修工事後のため施設の不具合もなく、適切に管理されている。
	指標イ	**向上**	改修に伴い施設が再周知され、定期利用団体以外の単発での利用も増加した。

	判定	方針	判定･方針の詳細
③ 今後の方向性（①･②を踏まえたR5以降の方針）	**継続実施**		生涯学習や市民コミュニティの場として継続利用する施設。定期的なメンテナンスを継続し低コストで維持管理していきたい。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	40300①	市民会館活動費（市民会館活動費）（講座）

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	24	生涯学習機会の充実
戦略事業名	121	生涯学習施設活動の支援

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	3
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和55年度			
根拠法令	旭市民会館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

（1）事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

市民一人ひとりが、自ら学び自ら行動し、より良い生活や自己向上を図るために、様々な学習機会を提供する事業。
①各種講座・教室の開催：通年、前期、後期、単発で市民のニーズに合った様々な講座を開催する。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

社会教育法21条を根拠とし、昭和41年に事業開始。主に市主催の定期講座、一般サークルへの貸館を行っている。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

参加者が固定されている。高齢者の利用が多く、若年層の利用が少ない。
人気のある講座は参加できない場合がある。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	➡	提供するモノやサービス	➡	成果	➡	施策の展開	➡	基本施策	➡	基本目標
主催講座事業	➡	市民のニーズに沿った学習機会（講座）を提供する	➡	市民一人ひとりがより良い生活や自己向上を図るため、自ら学び行動することができる 活動を通じて交流が図れ、新たなコミュニティが生まれる	➡	生涯学習機会の充実	➡	生涯学習の充実	➡	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

（2）活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

・主催講座事業（36講座）
・貸館業務（サークル・団体等：9時～21時）

② 活動指標

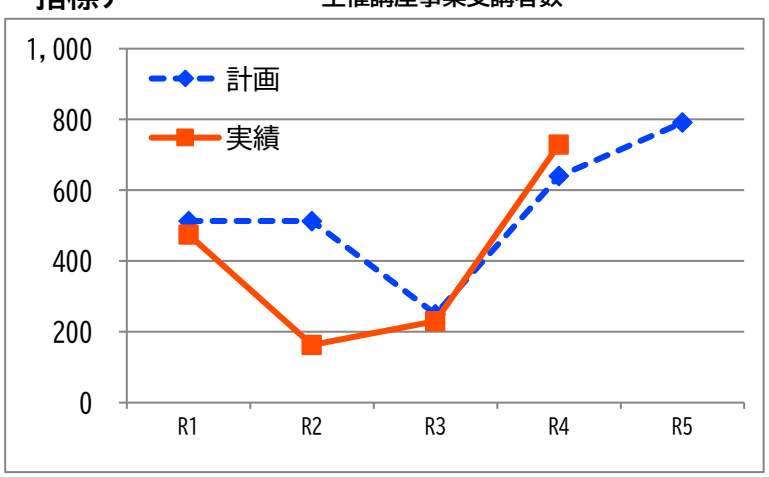
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	主催講座事業数	講座	計画	28	28	18	36	39
			実績	27	15	18	36	
イ	自主事業数（自主グループ・サークル）	団体	計画	21	18	14	22	25
			実績	17	14	12	25	

③ 成果指標

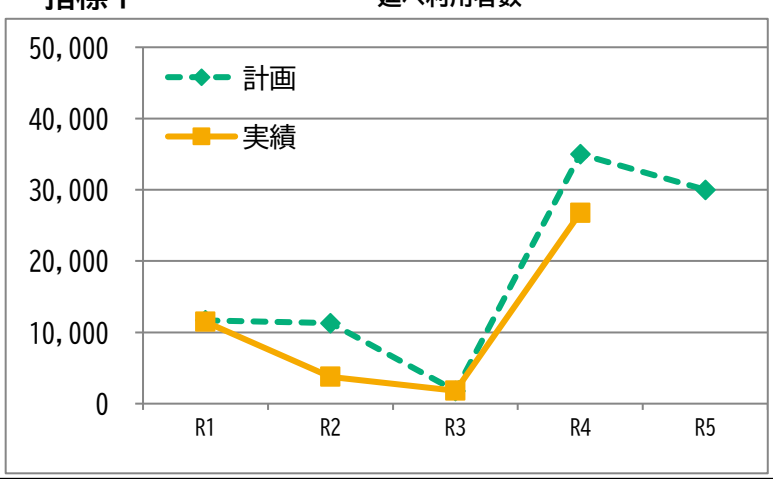
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	主催講座事業受講者数	増やす	人	計画	513	513	250	640	791
				実績	475	163	230	729	
イ	延べ利用者数	増やす	人	計画	11,700	11,300	1,800	35,000	30,000
				実績	11,486	3,766	1,813	26,786	

④成果指標の動向

指標ア　主催講座事業受講者数



指標イ　延べ利用者数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 報償金	1,173	720	674	1,349	1,615
	2. 保険料	118	118	118	118	118
	3. 消耗品	71	44	62	57	75
	4. 修繕料	20	20	20	20	20
	5. その他	26	26	9	6	19
	合計	1,408	928	883	1,550	1,847
財源内訳	国･県支出金	0	0	0		
	地方債	0	0	0		
	その他	0	0	0		
	一般財源	1,408	928	883	1,550	1,847
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	3	人						
最大		人	×		日	＝	延べ	人

③ 各費目の詳細(R4決算)	
1.報償金	講座講師謝金
2.保険料	公民館総合保障制度加入
3.消耗品	講座用消耗品
4.修繕料	ミシン点検修理
5.その他	クリーニング代、講座通知用切手代

④ 特定財源の詳細(R4決算)	
国･県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

【報償費の増】令和３年度は改修工事により休館期間があり主催講座が少なかったが、令和４年度は年間を通して講座を開催したため。

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		順調	誰もが学習しやすいように、様々なジャンル･時間帯の講座を開催している。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	向上	主催講座を増やしたこと、また、新型コロナウイルス感染症による自粛などの影響が薄れたことにより利用者が増加した。
	指標イ	向上	改修に伴い施設が再周知され、定期利用団体以外の単発での利用も増加した。

	判定	方針	判定･方針の詳細
③ 今後の方向性（①･②を踏まえたR5以降の方針）	継続実施		講座の満足度は高く、参加者の交流も図れ、生きがいになっている。

事務事業評価シート　令和 4 年度事後評価・決算

令和 5 年 12 月 1 日

事業コード・事務事業名	40500①	図書館活動費（図書の充実）（市図書館と図書施設のネットワーク）

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	26	図書館及び関連施設の充実
戦略事業名	125	図書の充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	4
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育班			
開始年度	昭和38年度			
根拠法令	図書館法・旭市図書館設置条例・旭市図書館規則ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☑ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

（1）事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

乳幼児から高齢者まで、住民すべての自己教育のための情報や資料を入手し提供する事業。①図書館協議会の開催②図書館資料の貸出、返却、予約・リクエスト処理③延滞資料の督促④資料（図書・雑誌・CD等）の選書、発注、納品確認、データ登録⑤資料の移動、除籍、リサイクル処理⑥リクエスト本の他自治体への相互協力依頼⑦学校・公民館図書室への図書の配送⑧市民への資料相談⑨おはなし会等各種イベントの開催⑩読書推進のための推薦図書リストの作成（広報・ホームページ・ブックリスト）⑪研修生の受入れ⑫家庭教育での読み聞かせ指導

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

昭和32年に旭中央公民館設置（図書室併設）。昭和38年に旭市図書館設置条例公布。昭和41年に完成した旭市民会館の1階で、図書館サービスを提供。令和3年に千葉県立東部図書館内へ移転。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

千葉県立東部図書館内で、県と市がそれぞれの図書館サービスを提供している。
（利用者アンケートより）県と市の図書館を利用でき便利。ホームページがきれいになり感心した。広くて静かで、駐車場もきれいで利用しやすい。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
資料の収集、整理、保存をし、図書館利用者（学校や保育園などの団体も含む）が求める情報の提供、資料の貸出をする。	地域住民に、無料で情報、資料を提供する。 地域住民が、ニーズに応じて図書館が開催する講座、イベントに参加する。	市民が、いつでも、身近に学習の機会があることによる住民満足度、教育水準の向上と、知識、文化の継承による市の発展。	図書館及び関連施設の充実	生涯学習の充実	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

（2）活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

- 本、雑誌、CD等の貸出、購入、除籍
- 資料相談
- 学校等支援
- 講座、イベントの開催
- ブックリストの作成、配布

② 活動指標

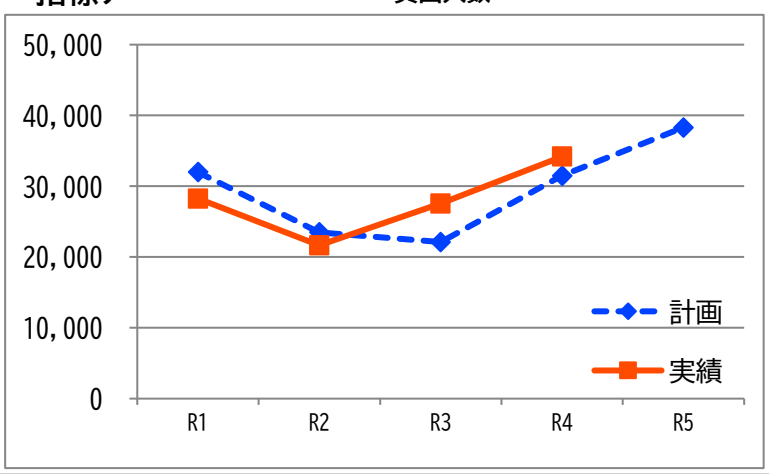
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	本の受入れ冊数	冊	計画	4,000	3,000	4,100	4,100	4,505
			実績	3,793	3,125	4,122	4,168	
イ	本の貸出冊数	冊	計画	100,000	73,600	70,000	98,500	109,000
			実績	89,229	68,540	85,105	101,214	

③ 成果指標

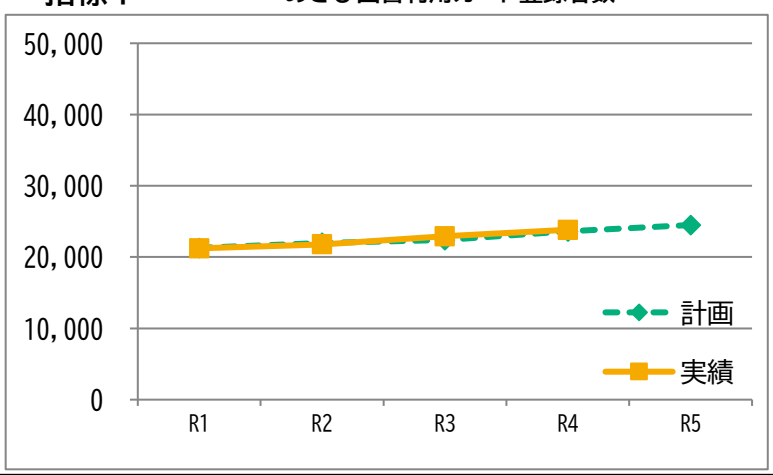
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	貸出人数	増やす	人	計画	32,000	23,500	22,120	31,500	38,300
				実績	28,250	21,659	27,575	34,179	
イ	あさひ図書利用カード登録者数	増やす	人	計画	21,300	22,000	22,400	23,600	24,500
				実績	21,228	21,790	22,919	23,831	

④成果指標の動向

指標ア　貸出人数



指標イ　あさひ図書利用カード登録者数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 備品購入費	6,551	5,000	6,999	7,205	8,000
	2. 使用料及び賃借料	4,307	5,216	6,064	6,281	6,318
	3. 賃金	6,621	9,256	13,711	16,717	20,679
	4. 需用費	2,613	2,588	3,139	4,106	4,348
	5. その他	1,897	1,166	1,213	1,383	1,497
	合計	21,989	23,226	31,126	35,692	40,842
財源内訳	国･県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	6,420	1,560	2,400	5,000	8,000
	一般財源	15,569	21,666	28,726	30,692	32,842
	一般財源の比率	70.8%	93.3%	92.3%	86.0%	80.4%

② 従事職員数

常時	2	人						
最大	6	人	×	35	日	=	延べ	210 人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.備品購入費	図書購入、ブックトラック及びシュレッダー購入
2.使用料及び賃借料	図書館情報システム機器賃貸借
3.賃金	会計年度任用職員報酬
4.需用費	雑誌・新聞・ブックスタートパック購入、光熱水費
5.その他	報償費、通信運搬費、委託料、負担金

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国･県支出金	
地方債	
その他	ふるさと応援基金繰入金

⑤ R3→R4　増減理由

費用内訳の3.賃金においては、会計年度職員（一般事務3人、司書4人）各々の時給が上がったことによる増加。
財源内訳のその他（ふるさと応援基金繰入金）においては、図書購入費に充てていたため、R3.7月の図書館移転に備え図書購入を厳選していたが、移転後に控えていた分の購入も見込み増加。

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	順調	図書館資料の貸出、リクエスト処理や除籍、データ登録などが継続的に行われ、健全な図書館の運営、管理を維持している。令和4年度、図書の配送サービスを市内小中学校と公民館以外に保育所も追加し拡大、図書館で開催するイベントにおいては、既存で例年実施される講座以外に2講座増で実施した。読書推進のための推薦図書リストは年度始めや夏休み前などの機会に作成。図書館だよりは年4回で発行している。

② 成果指標の推移（R3→R4）		判定	分析(変動の要因や対策について)
	指標ア	向上	令和3年度の図書館の移転により、利用者層が広がり定着してきた。
	指標イ	向上	既存で例年実施される講座、教室の他に「夏休み工作教室」と「夏休み読書感想文の書き方教室」2講座増やし、これらを図書館で開催することにより、市民の図書館への来館、利用促進につなげた。

③ 今後の方向性（①･②を踏まえたR5以降の方針）	判定		方針	判定･方針の詳細
	見直し	➡	その他	イベント、講座のチラシ、推薦図書リスト、図書館だよりは作成しているが、図書館に興味のない方も含め広く周知されないので、広報の仕方を見直す。(拡大方針) 多く読み手を担っていた保護者(母親)のワーク事情とコロナ禍により、読み聞かせボランティアの衰退がみられるため、読み手の育成やボランティア団体存続の方法を考える。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	40700	青年の家管理費

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	25	生涯学習関連施設の充実
戦略事業名	124	各施設の整備充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	5
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和47年度			
根拠法令	旭市青年の家の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

条例上は青少年健全育成のための施設だが、実情は生涯学習の中核的な施設として、教育文化の向上及び団体生活を通じての健全な育成を図ることを中心に施設を使用している。

開館時間は午前9時～午後9時までで、休館日は毎週月曜日(月曜日が祝休日の場合は、その翌日)と祝休日、並びに年末年始となっている。登録団体としてはダンス・柔道・大正琴等の20団体が活動を行っている。また、築40年を経過した施設であるため、施設の運営に関して、修繕等の維持管理が負担増となっている。

※　令和4年3月31日をもって青年の家を廃止。旭市観光物産協会および旭市職業相談室が令和4年5月23日に「あさひ市民センター」へ移転するまでの52日間、建物の維持管理のみ継続。

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

常に新しい知識や技術の習得に取り組み、自らの生活を充実させるような学習機会を、青少年等に提供することを目的に開始した。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

築40年を経過した施設であり、耐用年数を過ぎて使用している。その為、青年の家を廃止する話も出ている。そのような状況の中で、現在の利用者が安心して施設を使えるよう必要な維持・修繕を行っていく必要がある。

登録団体から、今後の青年の家について廃止の方向とのことだが、サークル活動を引き続き行いたいので活動場所の確保等の考慮をしてほしいとの意見が出ている。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
-	-	-	生涯学習関連施設の充実	生涯学習の充実	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

-

② 活動指標

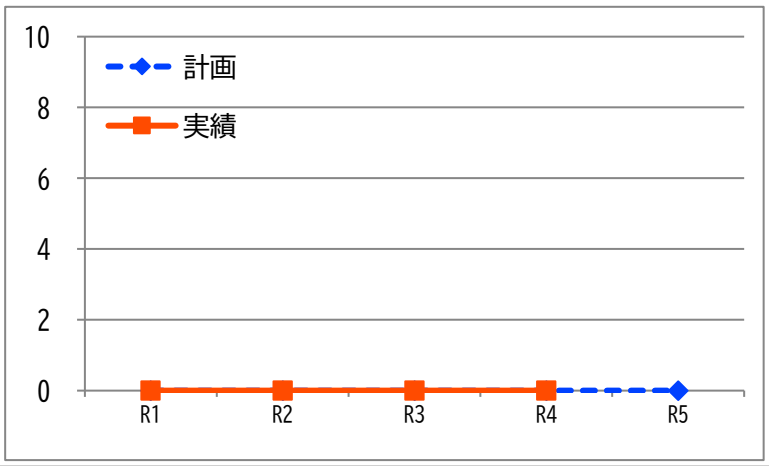
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	修繕件数	件	計画	3	5	2	0	-
			実績	3	2	0	-	
イ	貸館件数	件	計画	1,300	1,130	1,000	0	-
			実績	1,060	737	973	-	

③ 成果指標

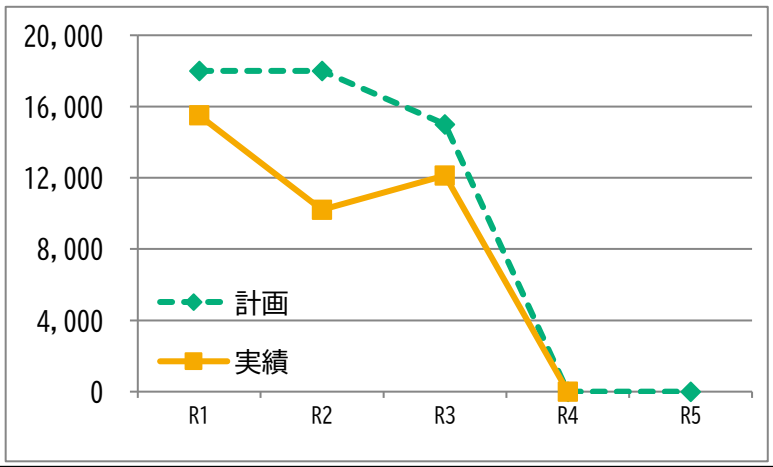
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	施設に関する苦情件数	減らす	件	計画	0	0	0	0	-
				実績	0	0	0	-	
イ	延べ利用者数	増やす	人	計画	18,000	18,000	15,000	0	-
				実績	15,498	10,197	12,123	-	

④成果指標の動向

指標ア　施設に関する苦情件数



指標イ　延べ利用者数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 報酬等(～H1賃金)	2,144	2,406	2,492	0	－
	2. 需用費	2,348	2,027	2,494	527	－
	3. 役務費	369	375	358	305	－
	4. 委託費	2,141	1,897	2,075	321	－
	5. その他	353	27	32	0	－
	合計	7,355	6,732	7,451	1,153	0
財源内訳	国･県支出金	0	0	0	0	－
	地方債	0	0	0	0	－
	その他	788	621	741	0	－
	一般財源	6,567	6,111	6,710	1,153	0
	一般財源の比率	89.3%	90.8%	90.1%	100.0%	

② 従事職員数

常時	1	人						
最大		人	×		日	＝	延べ	人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.報酬等(～H1賃金)	－
2.需用費	光熱水費、修繕料
3.役務費	通信運搬費、手数料、保険料
4.委託費	警備委託、自家用電気工作物保守委託、浄化槽維持管理等委託、清掃等委託
5.その他	－

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国･県支出金	
地方債	
その他	青年の家使用料、光熱水費等利用者負担分

⑤ R3→R4　増減理由

令和4年3月31日をもって、青年の家を廃止。これにより、事務事業費が大幅に減となった。

旭市観光物産協会および旭市職業相談室が令和4年5月23日に「あさひ市民センター」へ移転するまでの52日間、旭市青年の家に事務所を設置・運営していた。

そのため、移転までの52日分について、維持管理費が発生。

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	完了	令和4年3月31日をもって、青年の家を廃止。 社会教育施設としての運用管理は終了したが、旭市観光物産協会および旭市職業相談室が令和4年5月23日に「あさひ市民センター」へ移転するまでの52日間について、建物の維持管理のみ継続。

		判定	分析(変動の要因や対策について)
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア		－
	指標イ		－

	判定		方針	判定･方針の詳細
③ 今後の方向性（①･②を踏まえたR5以降の方針）				－

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	41100	海上公民館管理費

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	25	生涯学習関連施設の充実
戦略事業名	124	各施設の整備充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	7
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和56年度			
根拠法令	旭市公民館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

【維持管理業務】市民一人ひとりが、自ら学び自ら行動し、より良い生活や自己向上を高めるために、様々な学習機会を提供する場として、快適かつ安全で利用しやすい施設となるよう、公民館施設の維持管理及び改修を行い整備する事業。①乳幼児、高齢者、身障者が利用しやすい施設。②建築基準法、消防法等の法令に適合した安全な施設。③コスト削減、エコエネルギーに対応した施設。④情報の収集力の高いITに対応した施設を目指す。
【貸館業務】一般団体、サークル活動等の(ホール、研修室4、和室3、多目的ルーム、陶芸室、ラポート24)貸館業務(開館時間　9時～22時　休館日　月・祝日・年末年始休館)。【図書貸出業務】図書の貸出、図書室の管理。

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

社会教育法21条を根拠とし、昭和56年に事業開始。主に定期講座、一般サークルへの貸館、図書の貸出を行っている。昭和61年に展示閲覧室を増築している。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

改修整備費用は多額となることが予想される。そのため費用の確保は困難であり、補助事業などの活用や低予算での整備が課題。
利用者アンケートでは「ほぼ満足している」方が多い。
利用者アンケートでは「地元の公共施設として無くてはならない身近な施設として不可欠である」との意見が他地域に比べて多い。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
施設の維持管理	安心で安全な学習の場を提供する	市民が利用しやすい安全な施設	生涯学習関連施設の充実	生涯学習の充実	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

- 絶縁改修工事
- 1階男子トイレ内パイプシャフト感知器交換
- 2階和室障子張替
- エアコンリモコン交換
- 多目的トイレ修繕
- 2階女子トイレ自動水栓修理
- 公園ベンチ撤去
- 風除室外壁修繕
- 会議室天井修繕
- 二階和室空調機修繕
- 外壁改修工事

② 活動指標

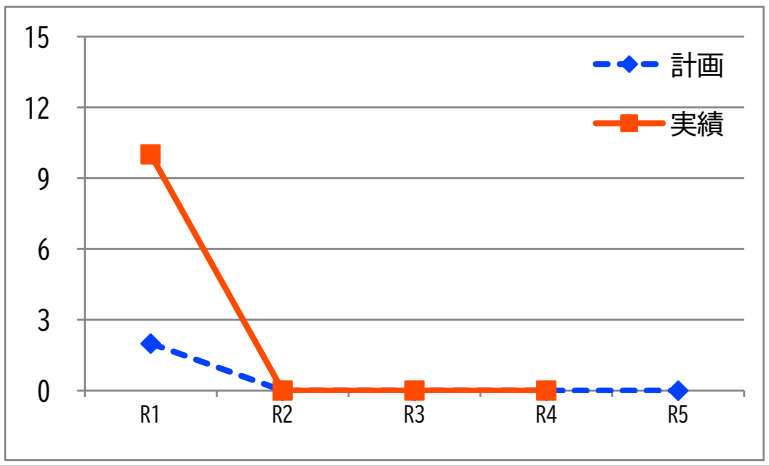
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	修繕回数	回	計画	3	4	5	2	5
			実績	9	11	9	11	
イ	貸館予約受付・申請数	件	計画	500	450	400	400	400
			実績	382	271	339	386	

③ 成果指標

	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	維持管理に関する苦情件数	減らす	件	計画	2	0	0	0	0
				実績	10	0	0	0	
イ	貸館延べ利用者数	増やす	人	計画	53,000	49,500	40,000	25,000	30,000
				実績	40,845	19,983	24,764	31,902	

④成果指標の動向

指標ア　維持管理に関する苦情件数



指標イ　貸館延べ利用者数

(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 賃金	3,014	3,594	4,182	4,362	4,431
	2. 需用費	4,372	8,155	10,057	6,929	9,324
	3. 役務費	366	340	366	488	478
	4. 委託料	5,339	5,313	5,844	5,709	7,009
	5. その他	1,465	285	1,112	504	12,313
	合計	14,556	17,687	21,561	17,992	33,555
財源内訳	国・県支出金	0	0	0		
	地方債	0	0	0		10,100
	その他	1,631	1,145	1,474	2,112	1,847
	一般財源	12,925	16,542	20,087	15,880	21,608
	一般財源の比率	88.8%	93.5%	93.2%	88.3%	64.4%

② 従事職員数

常時	6	人						
最大		人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.賃金	臨時職員賃金
2.需用費	消耗品、光熱水費、修繕料
3.役務費	通信運搬費、手数料、保険料
4.委託料	清掃、受付業務、樹木剪定、耐震調査、他
5.その他	工事請負費、備品購入費、共済費、使用料賃借料、公課費

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	公民館使用料

⑤ R3→R4　増減理由

1. 微増のみ
2. 修繕料維持補修費による減
3. 微増のみ
4. 微減のみ
5. 教育用備品費による減

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	概ね順調	市民の学習の場として、安全でかつ安心な施設に向けて、随時整備できている。経年劣化により必要な維持補修は増えていくが、定期的なメンテナンスを欠かさず、早期に対応し低コストで状態維持を継続したい。

② 成果指標の推移（R3→R4）		判定	分析(変動の要因や対策について)
	指標ア	好調維持	昨年同様、維持している。引き続き継続していきたい。
	指標イ	向上	講座やサークルでの使用も増えているため、順調に向上している。また、学習の場だけではなく、地域住民の憩いの場としても利用が増えている。今後も安心で安全な施設を維持していきたい。

③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	判定	方針	判定・方針の詳細
	継続実施		生涯学習の場をこれからも提供していく上では欠かせない施設となっている。しかし、施設の老朽化が進んでおり、いずれ大規模改修が必要となるが、定期的なメンテナンスを継続し低コストで維持管理していきたい。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	41200①	海上公民館活動費（海上公民館活動費）（講座）

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	24	生涯学習機会の充実
戦略事業名	121	生涯学習施設活動の支援

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	7
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和56年度			
根拠法令	旭市公民館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

（1）事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

市民一人ひとりが、自ら学び自ら行動し、より良い生活や自己向上を高めるために、様々な学習機会を提供する事業。
①各種講座・教室の開催：水彩画、ヨガ、陶芸、琴など。通年コースが多い。月1～2回2時間。定員15～50人程度
②イベントの開催（海上公民館まつりなど）。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

社会教育法21条を根拠とし、昭和56年に事業開始。主に市主催の定期講座、一般サークルへの貸館、図書の貸出を行っている。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

開始当初は、他団体・民間等で同様の事業を行っている団体は少なかったが、最近は趣味的な内容の事業を他団体でも実施している。また、住民層の学習意欲や社会意識の多様化により、多人数構成の講座には無理が生じている。
・利用者アンケートでは「ほぼ満足している」方が多い。
・講座受講者から、マンネリ化している講座の見直しをして欲しいとの意見あり
・利用者アンケートでは「地元の公共施設として無くてはならない身近な施設として不可欠である」との意見が他地域に比べて多い。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
講座を提供する	➡ 学習意欲を促す	➡ よりよい生活や自己向上につながる	➡ 生涯学習機会の充実	➡ 生涯学習の充実	➡ 結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

（2）活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

講座の募集・啓発活動

② 活動指標

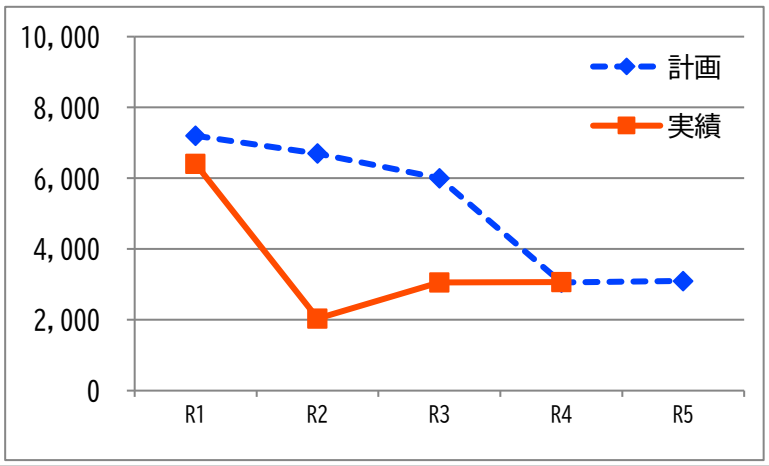
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	講座等開設数	講座	計画	33	28	23	20	21
			実績	25	16	20	21	
イ			計画					
			実績					

③ 成果指標

	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	講座等（主催事業）参加人数（延べ人数）	増やす	人	計画	7,200	6,700	6,000	3,056	3,100
				実績	6,403	2,037	3,056	3,063	
イ	生涯学習講座受講者数（実人数）	増やす	人	計画	630	540	500	415	600
				実績	544	368	415	564	

④成果指標の動向

指標ア　講座等（主催事業）参加人数（延べ人数）



指標イ　生涯学習講座受講者数（実人数）

(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 報酬	144	114	150	156	234
	2. 報償費	1,043	836	1,057	968	1,213
	3. 需用費	1,242	848	859	1,191	1,337
	4. 役務費	439	371	380	383	422
	5. その他	33	33	0	1	57
	合計	2,901	2,202	2,446	2,699	3,263
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	2,901	2,202	2,446	2,699	3,263
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時 6 人

最大 人 × 日 ＝ 延べ 人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.報酬	公民館運営審議会委員報酬
2.報償費	講座等講師謝礼
3.需用費	消耗品、印刷製本費、燃料費
4.役務費	通信運搬費（郵送）、手数料（折込）、保険料
5.その他	使用料、負担金、旅費、備品購入費

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

1. 微増のみ
2. 微減のみ
3. 印刷製本費の増
4. 微増のみ
5. 微増のみ

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	講座が増えたこと、それに伴い参加する実人数が増えたことで順調に実施できている。今後も市民の学習意欲を促すような講座を提供し、生き甲斐を作る場所として継続していきたい。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	向上	前年度よりも講座が増えたこともあるが、より充実した内容を提供できた結果、出席率も高くなり向上となった。今後も興味を持ってもらえるような内容を提供していきたい。
	指標イ	向上	充実した内容を提供できた結果、応募数も多くなり向上となった。今後も興味を持ってもらえるような内容を提供していきたい。

③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	判定	方針	判定・方針の詳細
	継続実施		今後も市民の学習意欲を促すような講座を提供し、生き甲斐を作る場として継続していきたい。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	41200②	海上公民館活動費（生涯学習リーダーバンクの充実）

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	24	生涯学習機会の充実
戦略事業名	123	生涯学習ボランティアリーダーバンクの充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	7
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和56年度			
根拠法令	旭市公民館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

市民一人ひとりが、自ら学び自ら行動し、より良い生活や自己向上を高めるために、様々な学習機会を提供する事業。
①各種講座・教室の開催：水彩画、ヨガ、陶芸、琴など。通年コースが多い。月1～2回2時間。定員15～50人程度
②イベントの開催（海上公民館まつりなど）。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

社会教育法21条を根拠とし、昭和56年に公民館事業開始。市民の自主的な活動を促進するため、市主催の生涯学習講座により講師となる人物を養成、発掘。生涯学習ボランティアリーダーバンクに登録いただき、旭市生涯学習ガイドに掲載。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

開始当初は、他団体・民間等で同様の事業を行っている団体は少なかったが、最近は趣味的な内容の事業を他団体でも実施している。また、住民層の学習意欲や社会意識の多様化により、多人数構成の講座には無理が生じている。
・利用者アンケートでは「ほぼ満足している」方が多い。　・講座受講者から、マンネリ化している講座の見直しをして欲しいとの意見あり　・利用者アンケートでは「地元の公共施設として無くてはならない身近な施設として不可欠である」との意見が他地域に比べて多い。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動		提供するモノやサービス		成果		施策の展開		基本施策		基本目標
生涯学習リーダーバンクの周知	➡	講座を提供	➡	新しい人材の発掘	➡	生涯学習機会の充実	➡	生涯学習の充実	➡	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

講座の募集・啓発活動
施設利用者・関係者にボランティアリーダーバンクの周知

② 活動指標

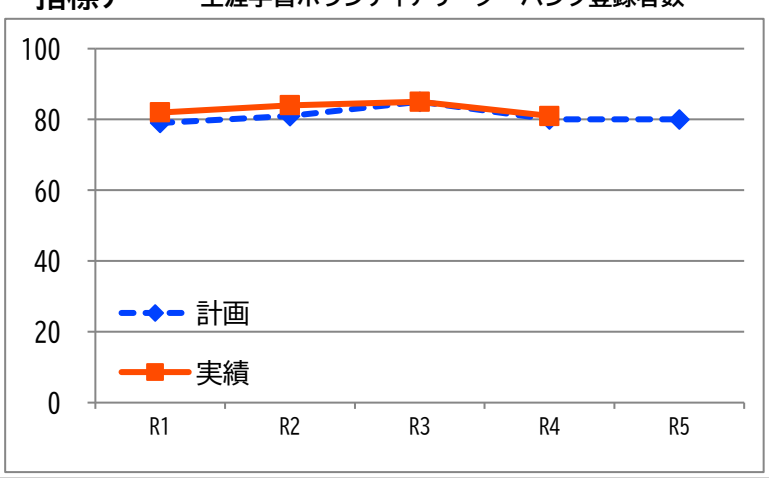
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	講座等開設数	講座	計画	33	28	23	20	21
			実績	25	16	20	21	
イ			計画					
			実績					

③ 成果指標

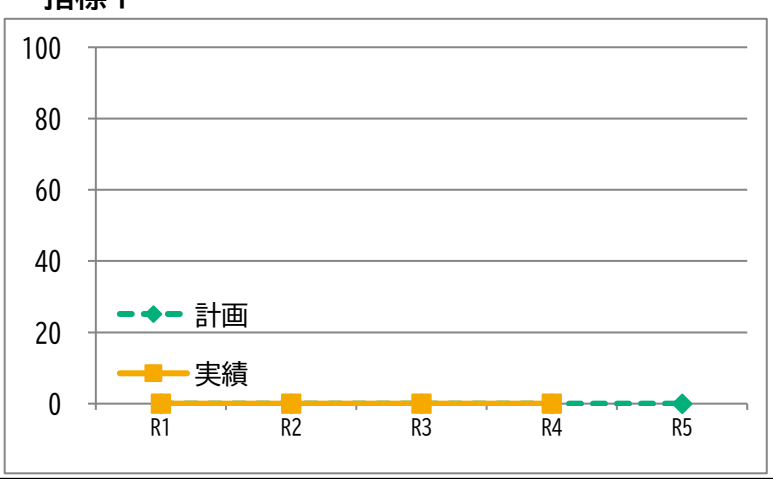
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	生涯学習ボランティアリーダーバンク登録者数	増やす	人	計画	79	81	85	80	80
				実績	82	84	85	81	
イ				計画					
				実績					

④成果指標の動向

指標ア　生涯学習ボランティアリーダーバンク登録者数



指標イ



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 報酬	144	114	150	156	234
	2. 報償費	1,043	836	1,057	968	1,213
	3. 需用費	1,242	848	859	1,191	1,337
	4. 役務費	439	371	380	383	422
	5. その他	33	33	0	1	57
	合計	2,901	2,202	2,446	2,699	3,263
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	2,901	2,202	2,446	2,699	3,263
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	6	人						
最大		人	×		日	＝	延べ	人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.報酬	公民館運営審議会委員報酬
2.報償費	講座等講師謝礼
3.需用費	消耗品、印刷製本費、燃料費
4.役務費	通信運搬費（郵送）、手数料（折込）、保険料
5.その他	使用料、負担金、旅費

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

1. 微増のみ
2. 微減のみ
3. 印刷製本費の増
4. 微増のみ
5. 微増のみ

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	市民に興味を持ってもらえるような講座が提供できている。今後も市民の学習意欲を促すような講座を提供していくための人材確保に尽力していく。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	低下	登録者数は減少しているが、一定数は維持している。今後はホームページやSNS等を活用して情報周知を図り、登録者数を増やしたい。
	指標イ		

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	継続実施		市民のより良い生活や、自己向上のための学習の場を提供するため、今後も継続していきたい。また、講師となる人材の養成・発掘にも尽力していきたい。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	41300	干潟公民館管理費

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	25	生涯学習関連施設の充実
戦略事業名	124	各施設の整備充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	7
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和49年度			
根拠法令	旭市公民館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☑ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

地域における生涯学習活動を担う施設として、施設の維持管理及び運営を行う。
また、市民が新しい知識を得たり、さまざまな体験をし、健やかな生涯を過ごすための学習の場、交流の場として情報の提供を行い、各種講座教室の開催をする。
【開館時間】9時～17時。但し、夜間利用がある場合は21時まで開館。【閉館日】月曜、祝日、年末年始
【館内施設】大ホール、研修室3、音楽室2、和室1、調理実習室1、図書室1

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

平成17年に1市3町が合併し、今まで当該公民館としては、主催事業及び学級講座については実施していなかったが、合併前の他市町公民館等との均衡を図るため実施することとなったものである。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

・令和2年4月に旧公民館(解体済み)より現施設に移転し、公民館事業及び学級講座を実施している。内装の大規模改修をしていない部分の老朽化対策を適正に行う必要がある。
・利用者からは、「施設がきれいで良いですね」との意見が多く、これからも施設の維持管理を適正に行っていく。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動		提供するモノやサービス		成果		施策の展開		基本施策		基本目標
施設の維持管理	➡	安心で安全な学習の場を提供する	➡	市民が利用しやすい安全な施設	➡	生涯学習関連施設の充実	➡	生涯学習の充実	➡	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

・感知器増設工
・事務室照明器具取替
・調理室換気扇改修
・ホールフロアコンセント修繕

② 活動指標

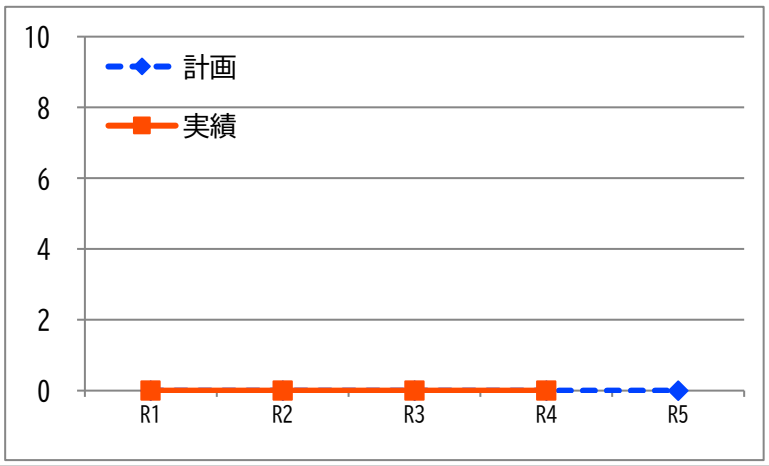
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	修繕件数	件	計画	1	0	0	1	1
			実績	6	0	4	4	
イ	貸館件数	件	計画	330	360	360	360	360
			実績	357	398	614	863	

③ 成果指標

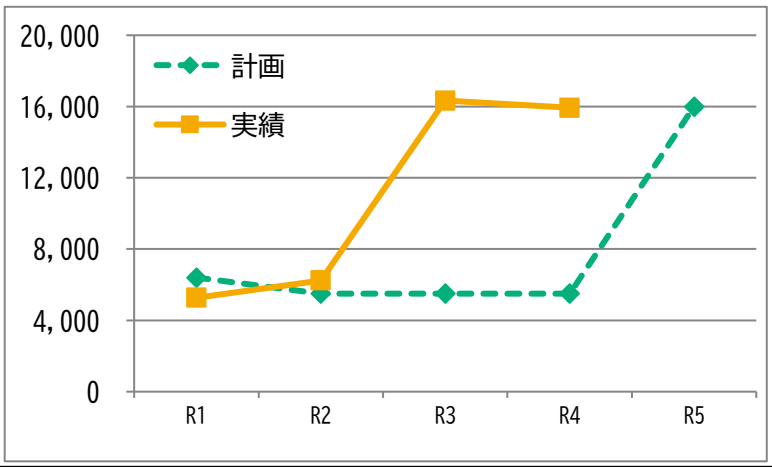
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	施設に関する苦情件数	減らす	件	計画	0	0	0	0	0
				実績	0	0	0	0	
イ	延べ利用者人数	増やす	人	計画	6,400	5,500	5,500	5,500	16,000
				実績	5,269	6,241	16,337	15,935	

④成果指標の動向

指標ア　施設に関する苦情件数



指標イ　延べ利用者人数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 賃金	3,487	4,277	4,300	4,514	4,946
	2. 需用費	2,297	3,603	3,273	3,957	6,781
	3. 役務費	612	598	517	552	559
	4. 委託料	2,521	5,419	5,115	5,785	8,248
	5. その他	984	306	99	278	286
	合計	9,901	14,203	13,304	15,086	20,820
財源内訳	国・県支出金	0	0	0		
	地方債	0	0	0		
	その他	371	211	400	614	495
	一般財源	9,530	13,992	12,904	14,472	20,325
	一般財源の比率	96.3%	98.5%	97.0%	95.9%	97.6%

② 従事職員数

常時	8	人						
最大		人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.賃金	臨時雇賃金
2.需用費	消耗品費、燃料費、光熱水費、修繕料
3.役務費	通信運搬費、手数料、保険料
4.委託料	受付業務委託料、エレベーター等保守点検委託料等
5.その他	放送受信料、賃借料、改修工事費、備品費等

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	公民館使用料（干潟公民館）、光熱水費等利用者負担分

⑤ R3→R4　増減理由

1. 微増のみ
2. 電気料金値上げ、修繕料増加による増
3. 微増のみ
4. 新規業務委託（空調設備保守点検業務）のよる増
5. 微増のみ

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	市民の学習の場として、安全でかつ安心な施設に向けて、随時整備できている。経年劣化により必要な維持補修は増えていくが、定期的なメンテナンスを欠かさず、早期に対応し低コストで状態維持を継続したい。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	好調維持	昨年同様、維持している。引き続き継続していきたい。
	指標イ	好調維持	定期利用団体、学級講座での利用者数は増加したが、令和3年度に選挙の投票所としての利用が多かったため利用者数が減少した。よって、好調を維持しているものとする。今後も安心で安全な施設を維持していきたい。

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	継続実施		生涯学習の場をこれからも提供していく上では欠かせない施設となっている。しかし、改修していない部分の老朽化が進んでおり、定期的なメンテナンスを継続し低コストで維持管理していきたい。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	41400①	干潟公民館活動費（干潟公民館活動費）（講座）

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	24	生涯学習機会の充実
戦略事業名	121	生涯学習施設活動の支援

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	7
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	昭和49年度			
根拠法令	旭市公民館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

地域における生涯学習活動を担う施設として、施設の維持管理及び運営を行う。
また、市民が新しい知識を得たり、さまざまな体験をし、健やかな生涯を過ごすための学習の場、交流の場として情報の提供を行い、各種講座教室の開催をする。
【開館時間】9時～17時。但し、夜間利用がある場合は21時まで開館。【閉館日】月曜、祝日、年末年始
【館内施設】大ホール、研修室3、音楽室2、和室1、調理実習室1、図書室1

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

平成17年に1市3町が合併し、今まで当該公民館としては、主催事業及び学級講座については実施していなかったが、合併前の他市町公民館等との均衡を図るため実施することとなったものである。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

・施設・設備の老朽化が深刻な問題となっており、建物本体については建築基準法に基づく定期報告により多くの指摘事項があげられ、設備についても保守点検などにおいて多くの指摘事項が生じている。
・耐震診断未実施
施設利用者から施設・設備の改善についての要望が多い。（雨天時のベランダの浸水や雨漏り、空調がほとんど効かない部屋がある、3階ホールの音響設備の改善等）

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
講座を提供する	➡ 学習意欲を促す	➡ よりよい生活や自己向上につながる	➡ 生涯学習機会の充実	➡ 生涯学習の充実	➡ 結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

講座の募集・啓発活動

② 活動指標

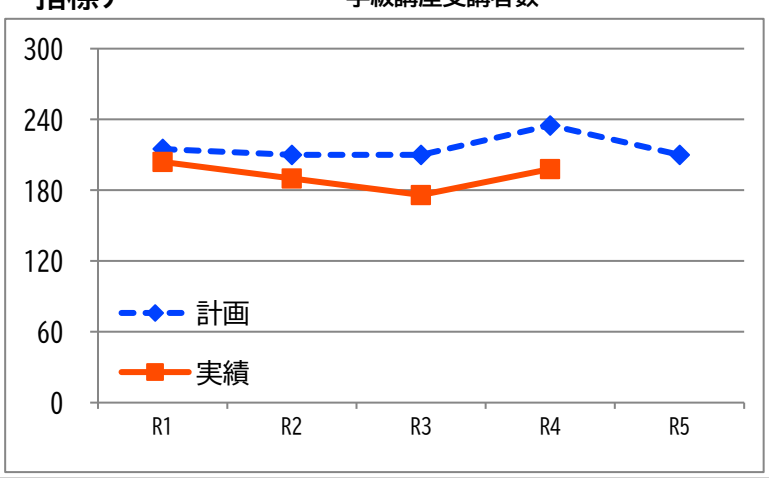
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	主催事業企画数	事業	計画	0	0	0	0	0
			実績	0	0	0	0	
イ	学級講座企画数	講座	計画	11	10	10	12	14
			実績	10	10	10	14	

③ 成果指標

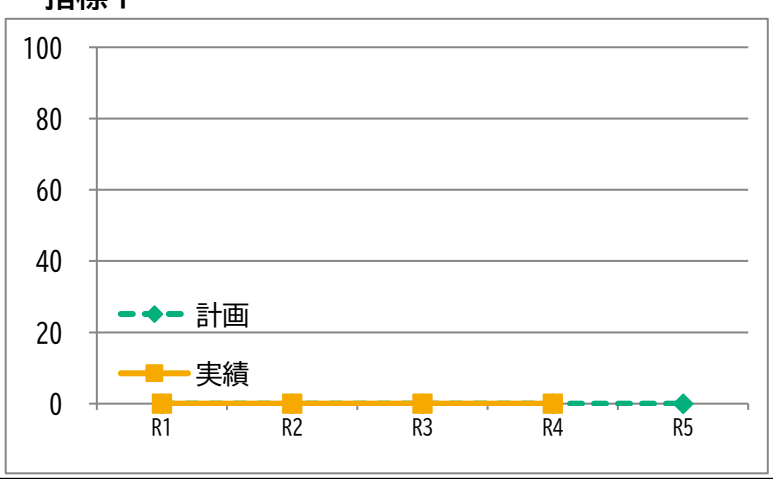
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	学級講座受講者数	増やす	人	計画	215	210	210	235	210
				実績	204	190	176	198	
イ				計画					
				実績					

④成果指標の動向

指標ア　学級講座受講者数



指標イ



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 報償費	676	576	674	781	835
	2. 需用費	76	91	88	82	93
	3. 役務費	135	134	135	135	135
	4. 使用料及び賃貸料	7	0	0	0	0
	5. その他	3	0	0	0	0
	合計	897	801	897	998	1,063
財源内訳	国・県支出金	0	0	0		
	地方債	0	0	0		
	その他	0	0	0		
	一般財源	897	801	897	998	1,063
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	8	人						
最大		人	×		日	＝	延べ	人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.報償費	報奨金
2.需用費	消耗品費
3.役務費	通信運搬費、手数料、保険料
4.使用料及び賃貸料	施設等入場料
5.その他	

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

1. 学級講座の増
2. 微減のみ
3. 増減なし
4. 増減なし
5. 増減なし

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		順調	学級講座の増により、参加する実人数も増え順調に事業が実施できている。今後も市民の学習意欲を促すような講座を提供し、生き甲斐を作る場所として継続していきたい。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	向上	前年度よりも講座が増えたこともあるが、より充実した内容を提供できた結果、出席率も高くなり向上となった。今後も興味を持ってもらえるような内容を提供していきたい。
	指標イ		

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	継続実施		今後も市民の学習意欲を促すような講座を提供し、生き甲斐を作る場として継続していきたい。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	41500	海上ふれあい館管理費

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	25	生涯学習関連施設の充実
戦略事業名	124	各施設の整備充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	8
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	平成9年度			
根拠法令	海上ふれあい館の設置及び管理に関する条例			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

JR飯岡駅舎との複合施設。
ふれあいサロン(22.39㎡)、ふれあいギャラリー(38.20㎡)、飯岡駅トイレが設けられており、各施設の維持管理を行う。
ふれあいサロンおよび飯岡駅トイレは、飯岡駅利用者の待合室や地域住民の憩いの場となっている。
ふれあいギャラリーは、文化活動の支援として学習活動(作品等)の発表の場となっている。

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

市民の文化活動の支援及び地域住民の融和を図るため、平成9年9月から飯岡駅改修に伴い開館。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

海上地区内のサークルだけでなく、他地区からの貸出申請が提出されるようになった。
展示品の販売をさせてほしい。
来場者用駐車場が無い。(飯岡駅駐車場が無い)
駐輪場を整備してほしい。(違反駐輪が多い)

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
展示室を提供する	市民が実施している文化・芸術活動の作品等を掲示する	旭市民の魅力が市内外に伝わり、旭市のPRにも繋がる	生涯学習関連施設の充実	生涯学習の充実	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

25件の作品展示を行った

② 活動指標

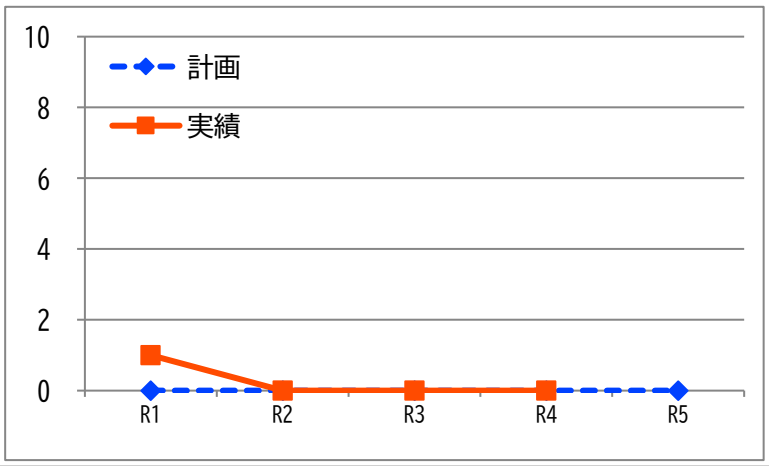
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	修繕件数	件	計画	1	1	2	0	1
			実績	2	4	0	1	
イ	貸館件数	件	計画	24	24	25	25	25
			実績	25	22	25	25	

③ 成果指標

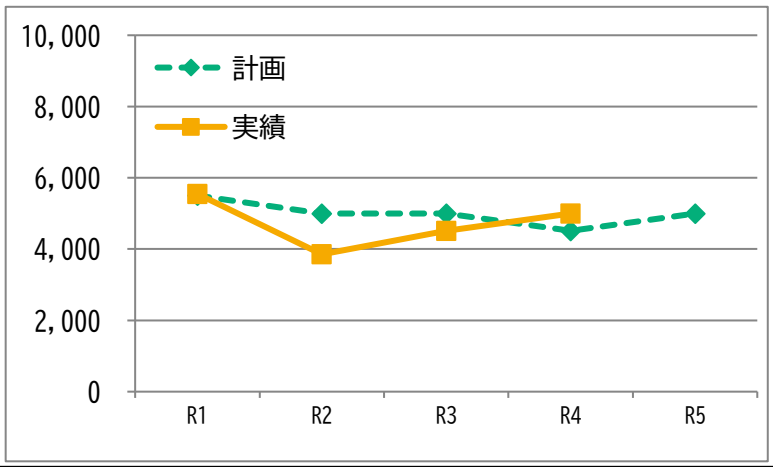
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	施設に関する苦情件数	減らす	件	計画	0	0	0	0	0
				実績	1	0	0	0	
イ	ふれあいギャラリー来訪者数	増やす	人	計画	5,500	5,000	5,000	4,513	5,000
				実績	5,549	3,853	4,513	4,996	

④成果指標の動向

指標ア　施設に関する苦情件数



指標イ　ふれあいギャラリー来訪者数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 需用費	806	2,162	643	856	1,333
	2. 役務費	163	163	163	165	167
	3. 委託料	1,327	1,471	1,505	1,534	1,621
	4. 使用料及び賃借料	25	25	24	25	26
	5. その他	0	0	0	0	0
	合計	2,321	3,821	2,335	2,580	3,147
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	2,321	3,821	2,335	2,580	3,147
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時	1	人						
最大		人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.需用費	消耗品費、光熱水費、修繕料
2.役務費	通信運搬費、手数料、保険料
3.委託料	施設維持管理委託料、浄化槽維持管理等委託料、清掃等委託料
4.使用料及び賃借料	放送受信料、諸借上料
5.その他	工事請負費、教育用備品費

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

1. 事務室エアコン取替工事実施のため増
2. 微増のみ
3. 微増のみ
4. 微増のみ

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		順調	海上地区だけでなく他地区への知名度も上がり、幅広く関心を持たれるようになり、来場者が年々増加している。また、常に作品を展示しているため、充実した環境作りができている。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	好調維持	今後も市民の憩いの場として、より良い環境作りを検討していきたい。
	指標イ	向上	順調に伸びているので、今後も旭市民の文化活動をより広められるよう検討していきたい。
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）		継続実施	今後も市民の憩いの場であり、文化活動に触れられる場所を提供したい。

判定	方針	判定・方針の詳細
継続実施		今後も市民の憩いの場であり、文化活動に触れられる場所を提供したい。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	41800	いいおかユートピアセンター管理費

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	25	生涯学習関連施設の充実
戦略事業名	124	各施設の整備充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	9
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	平成2年度			
根拠法令	いいおかユートピアセンターの設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

各種講座・教室・主催事業の開催、一般・定期利用団体の使用申請の受付や許可、図書の貸出しや管理、旧町史や文化振興事業の入場券の販売、施設の維持管理など。
【開館時間】9時～17時。但し、夜間利用がある場合は21時まで開館。【閉館日】月曜、祝日、年末年始
【館内施設】会議室　2、研修室　1、和室　1、栄養指導室　1、　大ホール(1,000人収用)　1、図書室　1、陶芸室　1

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

・市民が、生きがいを見つけ、充実した生活が送れるようにするため、平成元年に施設を設置し、翌2年度から事業を開始。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

・講座からサークルに移行して自立する団体が出来てきた。
・民間でも同様な教室(カルチャーセンター)があって新鮮味が薄れてきている。
・施設利用者からは「講座がマンネリ化している。新しいものを取り入れてほしい。」との意見・要望がある。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
施設の維持管理業務 貸館業務	市民が利用しやすい安全・快適な施設	市民が利用しやすい安全・快適な施設として社会教育学習の向上を図る	生涯学習関連施設の充実	生涯学習の充実	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

・施設の維持管理業務
　1階大会議室床改修工事
　音響改修工事
　ステージ照明工事
・貸館業務
　1,012回　24,670人

② 活動指標

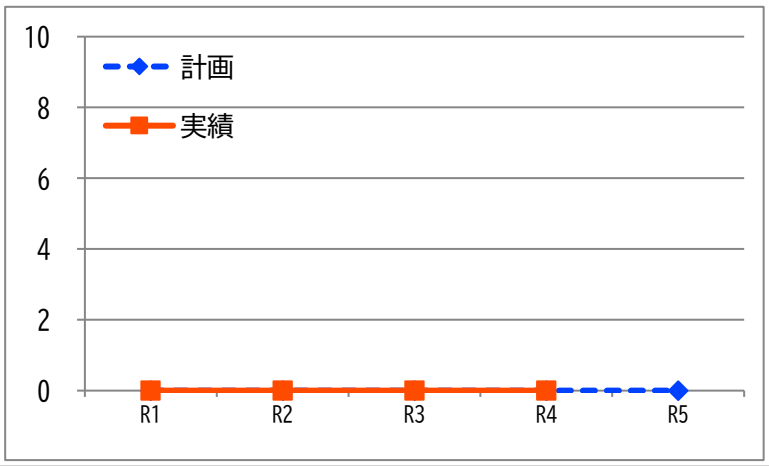
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	修繕回数	回	計画	10	10	10	7	6
			実績	15	16	8	13	
イ	貸館件数	件	計画	1,150	1,140	1,100	932	1,100
			実績	1,027	637	932	1,012	

③ 成果指標

	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	維持管理に関する苦情件数	減らす	件	計画	0	0	0	0	0
				実績	0	0	0	0	
イ	延べ利用者数(貸館・図書館利用者延べ人数)	増やす	人	計画	32,000	33,600	33,000	17,960	25,000
				実績	33,777	10,847	17,960	24,670	

④成果指標の動向

指標ア　維持管理に関する苦情件数



指標イ　延べ利用者数(貸館・図書館利用者延べ人数)

(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 委託料	5,348	5,045	4,996	5,600	5,975
	2. 光熱水費	2,957	2,520	2,935	4,939	8,637
	3. 臨時雇賃金	2,130	2,450	3,038	2,801	3,197
	4. その他	8,299	7,831	11,229	13,473	27,576
	合計	18,734	17,846	22,198	26,813	45,385
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	16,100
	その他	1,281	533	824	1,058	1,096
	一般財源	17,453	17,313	21,375	25,755	28,189
	一般財源の比率	93.2%	97.0%	96.3%	96.1%	62.1%

② 従事職員数

常時	4	人					
最大		人	×		日	＝ 延べ	人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.委託料	夜間受付、日常清掃、浄化槽点検、警備保障、等
2.光熱水費	光熱水費
3.臨時雇賃金	報酬、手当、共済費、旅費
4.その他	賃借料、修繕工事費、等

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	ユートピアセンター施設使用料ほか諸収入

⑤ R3→R4　増減理由

2. 電気料金等の値上げ

4. 改修工事の増加

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	新型コロナの影響が低くなってきたことにより、各種活動が活発になり利用が増えてきている。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	好調維持	施設の改修工事を順次行っている。
	指標イ	向上	イベント等も開催されるようになるなど、活動が活発になってきた。

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	継続実施		施設長寿命化のため計画的に改修工事を実施する。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	41900①	いいおかユートピアセンター活動費（いいおかユートピアセンター活動費）（講座）

施策体系			
基本施策	11	生涯学習の充実
施策の展開	24	生涯学習機会の充実
戦略事業名	121	生涯学習施設活動の支援

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	9
所管課	生涯学習課			
担当班	社会教育施設班			
開始年度	平成2年度			
根拠法令	いいおかユートピアセンターの設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☐ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

各種講座・教室・主催事業の開催、一般・定期利用団体の使用申請の受付や許可、図書の貸出しや管理、旧町史や文化振興事業の入場券の販売、施設の維持管理など。
【開館時間】9時～17時。但し、夜間利用がある場合は21時まで開館。【閉館日】月曜、祝日、年末年始
【館内施設】会議室　2、研修室　1、和室　1、栄養指導室　1、　大ホール（1,000人収用）　1、図書室　1、陶芸室　1

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

・市民が、生きがいを見つけ、充実した生活が送れるようにするため、平成元年に施設を設置し、翌2年度から事業を開始。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

・講座からサークルに移行して自立する団体が出来てきた。
・民間でも同様な教室（カルチャーセンター）があって新鮮味が薄れてきている。
・施設利用者からは「講座がマンネリ化している。新しいものを取り入れてほしい。」との意見・要望がある。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	⇨	提供するモノやサービス	⇨	成果	⇨	施策の展開	⇨	基本施策	⇨	基本目標
主催講座の開催	⇨	教養の向上や健康の増進につながるような講座の開催	⇨	市民が健康でいきいきと、心豊かな生活を送れるようにする	⇨	生涯学習機会の充実	⇨	生涯学習の充実	⇨	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

・主催講座の開催
　主催講座（13講座）・主催事業（2講座）開催

② 活動指標

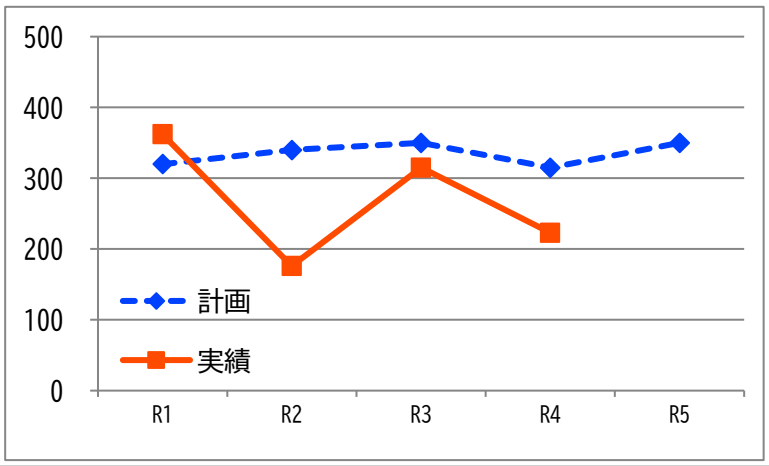
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	講座数	講座	計画	13	13	13	13	14
			実績	13	13	13	13	
イ	主催事業数	教室	計画	2	2	2	2	2
			実績	2	0	2	2	

③ 成果指標

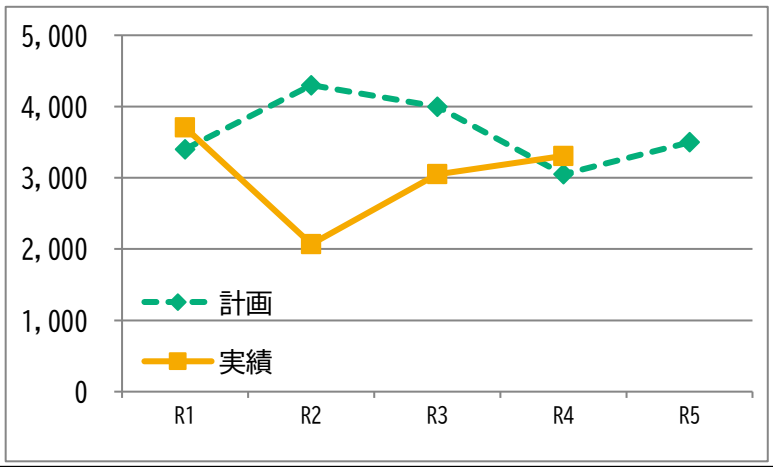
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	講座・主催事業参加者（実人数）	増やす	人	計画	320	340	350	315	350
				実績	362	176	315	223	
イ	延べ利用者数（講座・主催事業参加者延べ人数）	増やす	人	計画	3,400	4,300	4,000	3,050	3,500
				実績	3,705	2,069	3,050	3,308	

④成果指標の動向

指標ア　講座・主催事業参加者（実人数）



指標イ　延べ利用者数（講座・主催事業参加者延べ人数）



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 報奨金	1,191	1,024	1,117	1,190	1,183
	2. 保険料	118	118	118	118	118
	3. 消耗品	33	32	27	49	47
	4. その他	1	0	8	17	17
	合計	1,343	1,174	1,271	1,374	1,365
財源内訳	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	1,343	1,174	1,271	1,374	1,365
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

② 従事職員数

常時 2 人

最大 人 × 日 ＝ 延べ 人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.報奨金	講師謝金
2.保険料	保険料
3.消耗品	講座消耗品
4.その他	通信運搬費

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		概ね順調	教養の向上や健康の増進につながるような講座を開催している。 講座数は増えていないが、受講者数は新型コロナ前に戻りつつある。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	好調維持	新型コロナの影響が低くなってきたことにより受講者が増加した。
	指標イ	向上	新型コロナの影響が低くなってきたことにより講座の中止等がなくなり、利用者が増加した。

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	継続実施		講座の内容を精査し、新規講座を計画する。

事務事業評価シート　令和 4 年度事後評価・決算

令和 5 年 12 月 1 日

事業コード・事務事業名	42100	大原幽学記念館管理費（活動費含む）

施策体系		
基本施策	12	芸術文化の振興・伝統文化の保存
施策の展開	28	文化財の保護
戦略事業名	130	大原幽学関係資料の保護・保存

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	10
所管課	生涯学習課			
担当班	文化振興班			
開始年度	平成7年度			
根拠法令	大原幽学記念館の設置及び管理に関する条例ほか			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☑ 新市建設計画
- ☐ 定住自立圏共生ビジョン
- ☑ 過疎地域持続的発展計画
- ☐ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容（何をする事務事業なのか）

大原幽学及び郷土の歴史・民俗等に関する資料を収集・保管・展示を行うことで地域文化の向上に寄与するため、古文書調査の実施、収蔵庫内の管理、企画展示や講座の開催を行う。【活動経費】臨時職員2名（館長・用務員）の賃金、講師や研究員の謝礼、印刷物の作成費などがある。【維持管理業務】記念館は敷地面積1,531.5㎡、延べ面積1,134.28㎡の鉄筋コンクリート地上2階建の施設で、展示室、収蔵庫、学習室などからなっている。国指定重要文化財の大原幽学関係資料を中心とする郷土の歴史・民俗資料の保存・管理や来館者の対応のため、設備の保守・整備を行う。保守点検（浄化槽・受電設備・消防設備・エレベーター）、館内清掃、くんじょう作業を含む館内環境調査、ネズミ防除を業者に委託している。

② 開始の経緯（なぜこの事務事業を始めたのか）

大原幽学関係資料が国指定重要文化財となり、専門職員をおいた保存公開施設が必要となったため、平成8年3月に記念館が開館し、博物館施設としての業務が行われるようになった。

③ 環境の変化・課題・意見等（現状で問題などはあるか）

・新しく発見された古文書などがあり、国指定重要文化財の追加指定を目指して、継続して調査、研究を行っている。　・令和元年12月に登録博物館となり、地域の公立博物館としての役割が求められる。
・施設利用者の方から「高齢者の使用料免除がなく不満」、「せっかく良い展示があるのにPRが足りない。地域の子どもたちにもっと利用してもらってはどうか。」との意見がある。

④ 事務事業の目的と位置付け（何を目指しているのか）

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
大原幽学関係史料（資料）や地域の文化財等を収集、調査・研究、保存、公開するほか、学校の学習に利用してもらう。	市内外の幅広い年代層を対象に、大原幽学や地域の文化財の資料を常設展示、企画展示で広く公開し、希望者（主に団体）には展示説明を実施する。	大原幽学をはじめ、地域の歴史について興味、理解を深め、郷土愛の醸成に寄与する。	文化財の保護	芸術文化の振興・伝統文化の保存	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

●常設展（通年）
●企画展、館外展示
「熊野神社の御神幸」:10/4～12/18
「収蔵品展2023」:2/21～5/14
「大原幽学展」:於海上ふれあい館　4/1～4/14
「大原幽学展」:於東総文化会館　9/3～10/10
「ちばのお宝再発見」:於さわやかちば県民プラザ　10/19～10/30
●普及活動
「勾玉つくり」 全3回　参加者78名
「布ぞうりつくり」 全10回　参加者91名
「古文書講座」 全24回　参加者376名
「茶道教室」 全24回　参加者208名
●文化財調査
専門調査員による館所蔵史料の解読調査を実施し、「記念館報告9号」として刊行
●館内環境維持
粘着シートによる害虫防除、くん蒸、超音波による小動物侵入防止

② 活動指標

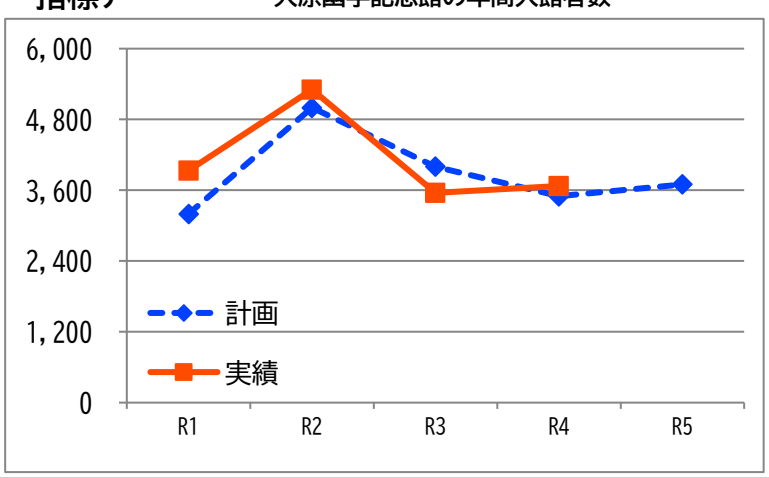
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	記念館開館日数	日	計画	200	309	300	298	298
			実績	209	257	299	298	
イ	講座・企画展開催回数（延べ）	回	計画	70	89	72	70	85
			実績	70	75	75	84	

③ 成果指標

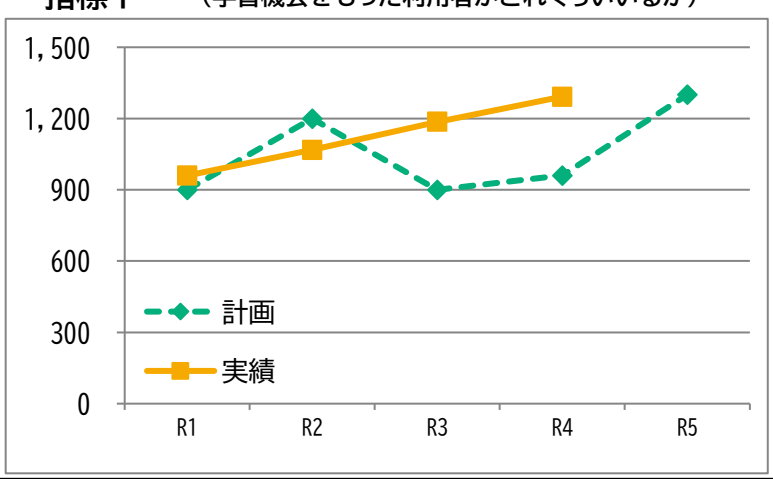
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	大原幽学記念館の年間入館者数	増やす	人	計画	3,200	5,000	4,000	3,500	3,700
				実績	3,934	5,307	3,556	3,669	
イ	講座受講者延べ人数（学習機会をもった利用者がどれくらいいるか）	増やす	人	計画	900	1,200	900	960	1,300
				実績	960	1,068	1,186	1,292	

④成果指標の動向

指標ア　大原幽学記念館の年間入館者数



指標イ　講座受講者延べ人数（学習機会をもった利用者がどれくらいいるか）



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 賃金	3,564	2,101	2,160	6,531	4,450
	2. 報償費	721	963	973	1,103	985
	3. 需用費	5,178	6,811	3,282	6,467	10,632
	4. 委託料	4,491	2,536	2,149	2,071	5,264
	5. その他	28,486	2,507	1,093	1,881	1,831
	合計	42,440	14,918	9,657	18,053	23,162
財源内訳	国・県支出金	0	2,502	0	0	2,180
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	348	979	485	485	425
	一般財源	42,092	11,437	9,172	17,568	20,557
	一般財源の比率	99.2%	76.7%	95.0%	97.3%	88.8%

② 従事職員数

常時	2	人						
最大		人	×		日	=	延べ	人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.賃金	活動費:会計年度任用職員報酬、職員手当、交通費
2.報償費	活動費:講師謝礼、研究員報償費
3.需用費	管理費＋活動費:光熱水費、修繕料、消耗品、印刷費、図書購入、ガソリン代
4.委託料	管理費＋活動費:保守（浄化槽・電気・消防・EV）、消毒、害虫防除、清掃等
5.その他	旅費、役務費、使用料、賃借料、備品

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	文化財保存整備事業費補助金　文化財保存整備事業費補助金
地方債	
その他	入館料

⑤ R3→R4　増減理由

1.賃金支給制度の改正による増
2.指定候補文化財の鑑定及びポスター図案作成の増
3.電気料金値上げ、在庫減によるパンフレット増刷、収蔵庫扉、換気設備、屋外ｷｭｰﾋﾞｸﾙ外箱修理等による増
4.微減
5.建物保険、労災保険、車検代、備品(PC)購入の増

(4)事務事業に関する評価

		判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗		順調	コロナにより活動制限を強いられたが、専門調査員による調査・研究は、在宅でも実施できるよう工夫することで維持できている。 展示内容に興味関心を引く工夫を心掛ける。 記念館に来てもらうことを期待するだけでなく、館外に出向いてアピールし(アウトリーチ)、興味のなかった人にも目に付くように働きかける。
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	判定 好調維持	分析(変動の要因や対策について) 来館者数は徐々に増えている。企画展の内容が来館者数に大きく影響することを念頭に置きつつ、郷土の文化財を紹介する企画を検討し、内容を引き立てる宣伝を工夫する。また、興味がある人が来るのを待つのではなく、興味のない人の目につき、関心が向くように、館外での紹介、展示にも注力する。
	指標イ	判定 好調維持	分析(変動の要因や対策について) コロナで停滞していた小学校利用が増えてきた。毎年利用してもらえるよう、見学案内を充実させ、今後も幼少期から郷土愛を醸成する役割を果たしていく。 文化財を見るだけでなく、体験することで身近に感じてもらう講座を検討する。
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）		判定 継続実施	方針 / 判定・方針の詳細 ・幽学資料の追加指定を目指すために、専門調査員による文化財調査を継続し、。 ・興味を引くアピール方法を工夫する。 ・興味のある人が来るのを待つだけでなく、興味のない人にも目を引くよう、館外でアピールする場を活用する。 ・小学校に利用してもらえるよう見学案内を充実させる。 ・体験学習により、文化財を身近に感じてもらう。

事務事業評価シート　令和　4　年度事後評価・決算

令和　5　年 12　月　1　日

事業コード・事務事業名	42300	大原幽学遺跡史跡公園管理費

施策体系			
基本施策	12	芸術文化の振興・伝統文化の保存
施策の展開	28	文化財の保護
戦略事業名	131	大原幽学遺跡史跡公園の充実

予算科目	会計	款	項	目
	一般	10	4	10
所管課	生涯学習課			
担当班	文化振興班			
開始年度	平成2年度			
根拠法令	文化財保護法			

掲載計画等
- ☑ 総合戦略
- ☐ 国土強靱化地域計画
- ☐ 新市建設計画
- ☑ 定住自立圏共生ビジョン
- ☑ 過疎地域持続的発展計画
- ☑ R4主要事業

(1)事務事業の概要 ※行政用語は使わず、簡潔に、市民にわかりやすく説明する

① 事務事業の内容(何をする事務事業なのか)

国指定史跡44,537㎡をふくむ総面積60,482.13㎡の公園を管理活用する事業である。恵まれた自然環境と史跡を活用し、文化財の保護と併せ、市民が地域の文化に触れ、また憩いの場となるよう整備する。

維持管理として、臨時職員2名により清掃、草刈、建物の開け閉めなどを行っている。また、業者委託により園内の緑地管理、防災設備の保守、水田の耕作等を行っている。また、必要に応じて指定文化財の修理、整備を行う。

② 開始の経緯(なぜこの事務事業を始めたのか)

国指定史跡大原幽学遺跡が昭和56年干潟町に寄贈されたことから、公園として整備がされ、平成2年に史跡公園として竣工した。

③ 環境の変化・課題・意見等(現状で問題などはあるか)

園内施設の老朽化や取り壊しなど公園としての整備がすすんだ。キャンプ場は平成21年度で廃止。史跡の公有化も行い、水田や住居跡地の活用が課題となっている。

東側の駐車場から公園まで距離があり、傾斜地でもあることから、高齢者、足腰に不安のある人には利用しずらい、また園内の遊歩道が歩きづらい、案内表示がわかりにくいとの声がある。

④ 事務事業の目的と位置付け(何を目指しているのか)

事業活動	提供するモノやサービス	成果	施策の展開	基本施策	基本目標
国指定史跡の建造物、緑地、水田、墓等施設のほか、県指定建造物の管理及び「遺跡整備基本計画」に基づく史跡の再整備を行う。	市内外の観覧者に憩いの場を提供するために、下草刈り、危険樹木の伐採、園路整備等環境を整備する。	幽学の事績について追体験し、地域の歴史について興味、理解を深め、郷土愛の醸成に寄与する。	文化財の保護	芸術文化の振興・伝統文化の保存	結婚・出産・子育ての希望がかない、誰もが生きがいを持てるまちづくり

(2)活動と成果の状況

① R4の主な活動や実績

●修繕
- 旧林家屋根漆喰修理
- 大原聖殿奥殿覆い屋外壁塗り替え
- トイレ手洗い排水管修繕
- 駐車場外灯撤去
- 旧林家受信機バッテリー交換

●委託
- 保守管理(緑地、浄化槽、消防設備、水田等)
- 設計業務(防災設備更新工事)

●発掘調査
- 改心楼跡地造成状況及び建設地
- 旧宅跡地造成状況

② 活動指標

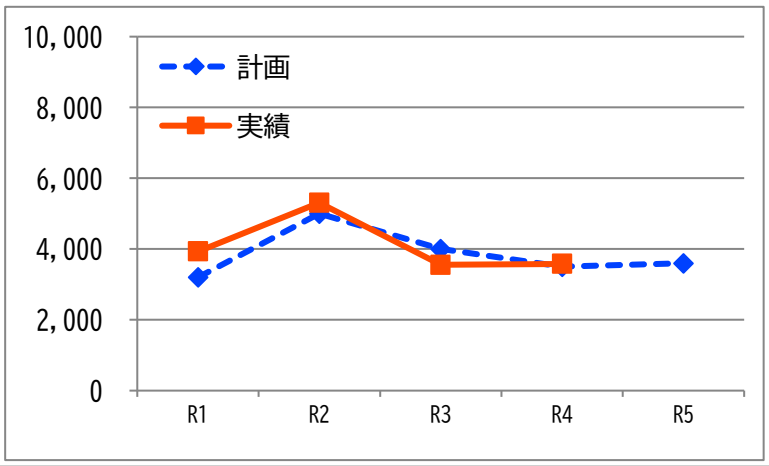
	活動指標	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	開園(記念館開館)日数	日	計画	200	309	300	298	298
			実績	209	257	299	298	
イ	修繕、工事件数	件	計画	5	4	4	2	3
			実績	7	9	9	5	

③ 成果指標

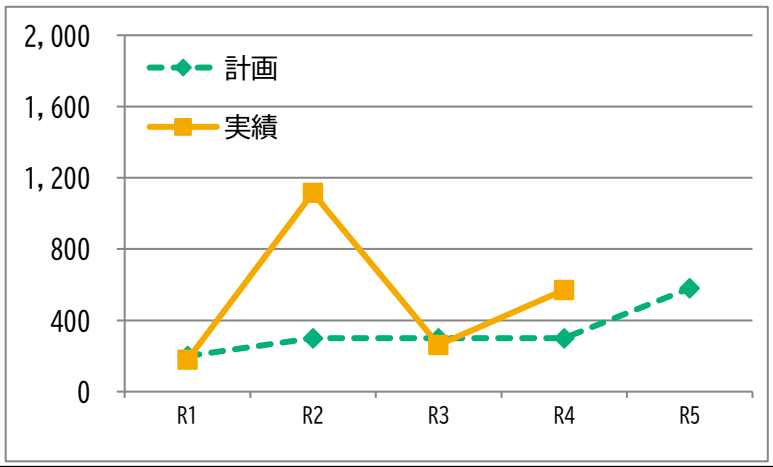
	成果指標	方向性	単位		R1	R2	R3	R4	R5
ア	大原幽学記念館の年間入館者数	増やす	人	計画	3,200	5,000	4,000	3,500	3,600
				実績	3,934	5,307	3,556	3,581	
イ	市内在住の入館者数	増やす	人	計画	200	300	300	300	580
				実績	178	1,115	262	570	

④成果指標の動向

指標ア　大原幽学記念館の年間入館者数



指標イ　市内在住の入館者数



(3)コストの状況

（単位:千円）

① 事務事業費		R1決算	R2決算	R3決算	R4決算	R5予算
費目内訳	1. 賃金	2,328	2,553	2,494	2,985	3,275
	2. 需用費	542	471	821	412	508
	3. 委託料	3,977	5,133	10,817	8,692	12,185
	4. 工事請負費	940	1,731	1,683	0	53,460
	5. その他	817	905	1,038	1,046	2,945
	合計	8,604	10,793	16,853	13,135	72,373
財源内訳	国・県支出金	0	0	3,757	2,560	21,617
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	14,500
	一般財源	8,604	10,793	13,096	10,575	36,256
	一般財源の比率	100.0%	100.0%	77.7%	80.5%	50.1%

② 従事職員数

常時	2	人					
最大		人	×		日	＝ 延べ	人

③ 各費目の詳細(R4決算)

1.賃金	会計年度任用職員報酬、職員手当、交通費
2.需用費	光熱水費、燃料代、消耗品
3.委託料	緑地管理、防災保守等
4.工事請負費	公園改修工事、看板改修工事
5.その他	労災保険料、役務費、使用料及び賃借料、備品購入

④ 特定財源の詳細(R4決算)

国・県支出金	国宝重要文化財等保存・活用事業費補助金　文化財保存整備事業費補助金
地方債	
その他	

⑤ R3→R4　増減理由

1. 会計年度任用職員の交代に伴う交通費の増、最低賃金改正による増、発掘調査補助員雇用による増
2. 修繕件数が少なくなったことによる減
3. コンサルティング業務完了による減
4. 工事請負なし
5. 微増

(4)事務事業に関する評価

	判定	分析(好不調の要因や対策について)
① 事務事業の進捗	順調	平成2年に自然と歴史に触れあえる史跡公園として竣工したが、設備の老朽化が顕著である。そこで、令和2年度に「大原幽学遺跡史跡整備基本計画」を策定し、防災設備の更新、斜面整備(保護)、排水対策、園路整備等遺跡を保護するとともに来園者に快適に利用してもらうための整備を順次実施する。

		判定	分析(変動の要因や対策について)
② 成果指標の推移（R3→R4）	指標ア	好調維持	来園者は少しずつ増加傾向にある。四季折々の草花の観賞が目的で、公園散策だけする人もいることから、厳密な統計はないものの、記念館利用者よりも来園者は多いと考えられる。
	指標イ	向上	市民への認知度が少しずつ向上している。また、小学校の学習の一環として活用されていることも、来園者の増加の一因と考えられる。

	判定	方針	判定・方針の詳細
③ 今後の方向性（①・②を踏まえたR5以降の方針）	継続実施		・老朽化した防災設備の更新工事を実施する。 ・斜面崩落防止のための急傾斜地の整備を実施する。 ・降雨時ぬかるむ地盤を改良するために、排水工事とともに北側駐車場、園路整備を実施する。 ・史跡の価値を高めるための発掘調査を実施する。 ・倒木の恐れがある危険木を伐採する。 ・水田排水路の土手が崩落しないように整備する。